

〔総説〕 松本歯学 13 : 1 ~ 34, 1987

key words : 野口英世 — 伝記 — 血闘守之助 — 東京歯科大学 — 黄熱病

松本歯科大学所蔵の野口英世の伝記

矢ヶ崎 康

松本歯科大学 歯科医学史研究室

加藤倉三

松本歯科大学 歯科放射線学教室

枝 重夫

松本歯科大学 口腔病理学教室

A Collection of the Biographies of Dr. Hideyo Noguchi in Matsumoto Dental College

YASUSHI YAGASAKI

Dental and Medical History, Matsumoto Dental College

KURAZO KATO

Department of Dental Radiology, Matsumoto Dental College

SHIGEO EDA

Department of Oral Pathology, Matsumoto Dental College

Summary

In this paper the biographies of Dr. Hideyo Noguchi, a world famous bacteriologist, were reviewed using a total of 141 books and journals which are in a collection in Matsumoto Dental College.

A biographical sketch of Dr. Noguchi is as follows :

He was born in Inawashiro, Fukushima Prefecture, on November 24, 1876. For the purpose of getting a license to practice medicine he went to Tokyo in September, 1896. Two months later he visited Takayama Dental School, now the Tokyo Dental College, and met Dr. Morinosuke Chiwaki, and their lifelong friendship began. After a short while Noguchi became lecturer in pathology and pharmacology at the school.

In November, 1900, he went to the United States and studied snake toxin at Pennsylvania University under Professor Flexner. In October, 1904, when Professor Flexner became the First President of the newly-opened Rockefeller Institute for Medical Research, Noguchi was able to get the position of first assistant, and studied mainly the spirochete of syphilis.

In June, 1918, he went to Ecuador, South America, and did research on yellow fever. In the next year, he claimed that a species of "spirochete" causes yellow fever; however, this was a mistake. Now it has been proven by electron microscopy that the cause of yellow fever is not spirochete but virus. Unfortunately Noguchi died of yellow fever in Accra, Africa, on May 21, 1928.

The following biographies can be recommended for further information :

- 1) Eckstein, G. : Noguchi, pp. 1-419. Harper & Brothers, New York. 1931.
- 2) Okumura, T. : Hideyo Noguchi, pp. 1-662. Iwanami-shoten, Tokyo. 1933.
- 3) Takahashi, A. ed. : Biography of Hideyo Noguchi, pp. 1-292. The Doctor Noguchi Memorial Association, Tokyo. 1963.
- 4) Tsukuba, T. : Hideyo Noguchi, pp. 1-236. Kodansha, Tokyo. 1969.
- 5) Tan, M. : Hideyo Noguchi, His Life and Works. Vol. 1, Biography, pp. 1-352. Kodansha, Tokyo. 1976.
- 6) Nakayama, S. : Hideyo Noguchi, pp. 1-264. Asahi-shinbunsha, Tokyo. 1978.
- 7) Plesset, I. R., Translated by Nakai, H. & Masuya, Y. : Noguchi and His Patrons. pp. 1-482. Seiwa-shoten, Tokyo. 1987.

はじめに

野口英世の生誕100年を記念する種々な行事が各地でとり行なわれたのはちょうど10年前の1976年11月のことであった。その模様は後出21)の"野口英世博士生誕百年記念誌"(1987, 図1)に詳しい。また南米エクアドルからは、同年11月11日、生誕100年を記念して切手が発行された(図2, 3)。図2は、105×85 mmの超大形で目打がなく、図3は、37×27 mmで目打がある。原画作者は新世紀美術協会委員の二瓶 等画伯であるが、切手のために描いたのではなく、野口英世記念館所蔵の半身像から採ったもので、この絵は、1915年10月、新潟朝倉写真館で撮影した写真を基に描かれたものである。なお図3の方の切手は発光切手で、紫外線を当てると隠し字"DEL EO GEOGRAFICO MILITAR GOBIERNO"が暗色の地に明るく浮き出る。

さて、彼ほど波乱に富み、しかも名声に生きぬいた人は少なく、そのため伝記が多いのも特筆すべきものである。48)「野口英世」伝の研究(1972)という単行書まで出ているのは、まさに驚きであ

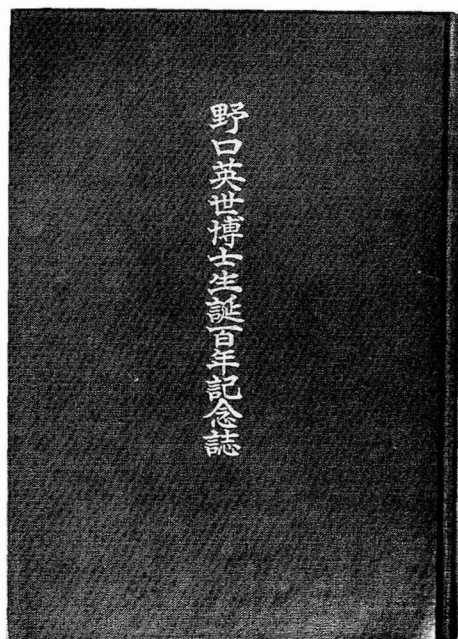


図1：野口英世博士生誕百年記念誌，1978

る(図4)。伝記の目録も、これら“生誕百年記念誌”や“野口英世伝の研究”, さらに後出の50) “丹実・編: 野口英世, 第1巻・伝記“(1976)などにありは網羅されている。松本歯科大学では、主として著者の1人枝が担当し、野口英世の伝記の蒐集を続けているが、重要なものを含む約140冊のコレクションができたので、ここに紹介する次第である。

紹介に先だち、野口英世と歯科医学の関係にふれておく必要がある。1896年(明治29年)9月に上京した野口清作は、翌10月、医術開業前期試験に合格し、11月3日(天長節)に血脇守之助を芝伊皿子の高山歯科医学院に訪ねた。この歯科医学院は1900年に東京歯科医学院になり、1907年に東京歯科医学専門学校と改称、さらに1946年に東京歯科大学になった。野口の目的は、1年後の医術開業後期試験に備えて、同学院に勤務しながら勉強したいという事であった。しかし高山紀斎はこれを認めず、血脇守之助は止むを得ず学院の私塾生としたのである。つまり小使い兼受付係りである。翌1897年10月、野口は、後期試験の受験者80名中合格者4名のなかに入ることができた。晴れて医師の資格を得たのである。22歳であった。間もなくして、血脇は野口を同学院の病理学と薬物学の講師に委嘱した。野口が初めて教壇に立った時、学生たちは「あれは授業の鐘を鳴らしていた男ではないか」と笑ったが、その名講義に呆然としたという。このエピソードはあまりに有名であ

るが、正確な期間や講義内容は不明である。しかし彼は11月に順天堂病院の助手になり翌1898年4月には北里柴三郎の伝染病研究所の下級助手として採用されているので、1897年10月から11月にかけて約1か月間であったろうと考えられる。病理学の講義内容を示唆するものとして、1899年4月発行の歯科医学叢談(1900年5月から歯科学報と改題、現在に至る)の第4巻第2号1~5頁に“口腔の腫瘍に就きて”がある(図5)。これには癌腫、嚢腫、ガマ腫の解説があるが、エナメル上皮腫など歯原性の腫瘍はまったくない。末尾に未完とあるので、続報でそれらにふれる予定だったのかも知れない。しかしそれが発表された形跡がないのは残念である。なお図5の本文4行目の下の方に「…発表する」とは、……と妙な字のところがある(矢印)。これは“丹実・編: 野口英世, 第3巻・業績”では「…発表することは、……」となっている(94頁)。またこの報文では、すでに英世となっているが、改名したのはその半年ほど前の1898年(明治31年)8月のことであった。野口はまた日本における法医歯科学の先駆者とも言われている(山本勝一: 法医歯科学, 医歯薬出版, 東京, 1987)。すなわち彼は1900年に東京歯科医学院において、“年齢と歯科法医学”および“咬傷の法医学的關係”について講義を行なっている。こ



図2, 3: 野口英世の切手, エクアドル, 1978

左(図2): 大版切手
右(図3): 発光切手

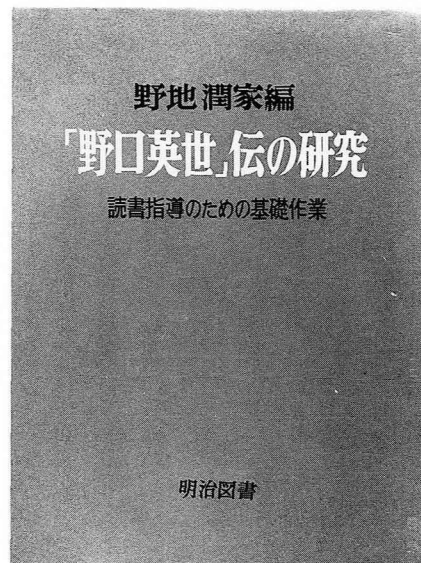


図4: 野地潤家編: 「野口英世」伝の研究, 明治図書, 1972(ケース)

れは法医歯科学の鼻祖 Oscar Amoëdo の学位論文 "L'Art Dentaire Medecine Legale" (1898) を Port, M. G. が独訳した "Die Zahnheilkunde in der Gerichtliche Medizin" (1900) の一部をいちはやく翻訳紹介したものである。なお彼には von Kahliden, C. 原著 "Technik der histologischen Untersuchung pathologisch-anatomischer

Präparate für Studierende und Ärzte" の訳書 "病理学的細菌学的検究術式綱要" 半田屋医籍商店, 東京, 1899があることを付記する。

伝記を紹介する方法として、発行年代順、単行書（野口1人だけのもの、複数のものに分けられる）、雑誌、成人向け、子供向け、著者別などが考えられる。多くの目録がそうであるように年代順

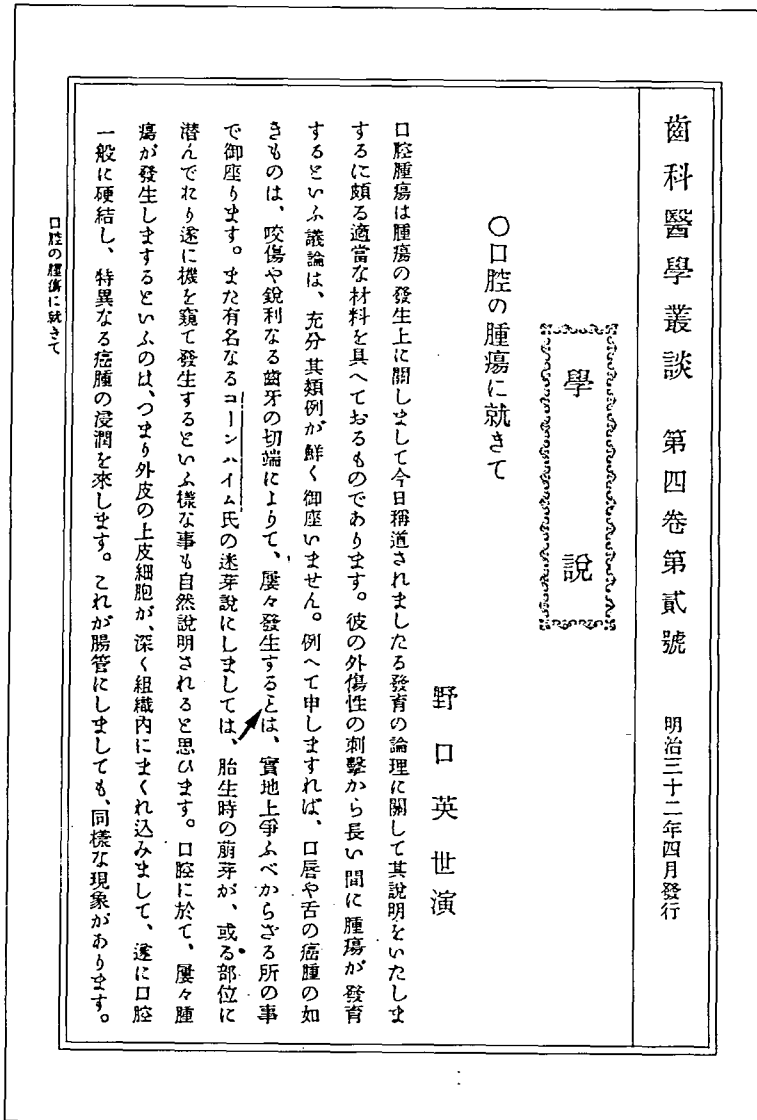


図5：歯科医学叢談(1年後に歯科学報と改題)、第4巻第2号1～5頁, 1899年に載った論文の第1頁。

にすれば書きやすいが、無味乾燥になるばかりでなく全体の流れがつかみにくい。そこで著者らは、著者別を基本にしそれぞれを年代順にしてみた。また野口記念会発行のものと子供向けのものは別にした。さらに野口英世の母や恩師のものもつけ加えた。

野口英世の伝記

1) 野口英世博士追悼記念号。歯科学報, 33(8): 841~962, 1928, (図6)。5月21日死去の70日後の8月1日に発行された。血脇守之助: 野口博士を悼む。ロックフェラー医学研究所: 野口博士逝く。野口博士の経歴。寺田正中: 野口博士の学勲。奥村鶴吉: 野口博士を懐う。伝記および口絵写真から成っている。なお歯科学報の次号(No. 9)の1031~1047頁に、故野口博士追悼記念会と題し、各地で行なわれた追悼会の様子が集録されている。



図6: 野口英世博士追悼記念号。
歯科学報, 第33巻第8号の表紙, 1928

2) 安井作太郎編: 野口英世, 其生涯及業績, 126頁, 東京歯科医学専門学校, 東京, 1928, (図7)。1)を改定増補し9月6日に単行書として発行したもの。なお表紙の氏名は野口の自筆から採ったもので、裏表紙にはやはり自筆のローマ字名がある。稀覯本。

3) 星 一: 故野口博士母堂, 18頁, 1928, (図8) 奥付がないので、発行のデータがまったくわからない。後記の日付は昭和3年6月29日になっており、また“百年記念誌”(前出)の目録にも“昭和三”となっているので、昭和3年に発行になったことは間違いない。後記に5日後の猪苗代町竹馬会の追悼会に間に合わせたとあるので、発行日は昭和3年7月4日、発行所は竹馬会、猪苗代町ということになる。星 一(後の星製薬社長)は野口がアメリカでお世話になり、また一時帰国の際に大金5,000円の援助を仰いだ人である。55)参照のこと。稀覯本。

4) 奥村鶴吉: 野口英世, 680頁, 岩波書店, 東京, 1933, (図9)。奥村は東京歯科医学専門学校の校長で、1)と2)を骨子として本書を編纂した。野口英世の伝記の原典といわれている。好評

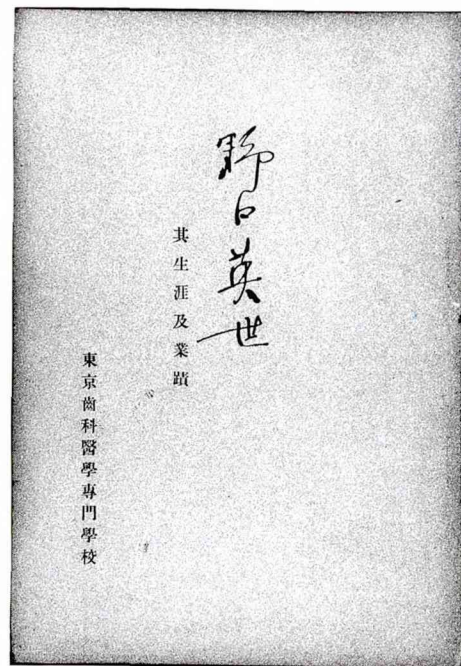


図7: 安井作太郎編: 野口英世, 其生涯及業績。
東京歯科医学専門学校, 1928

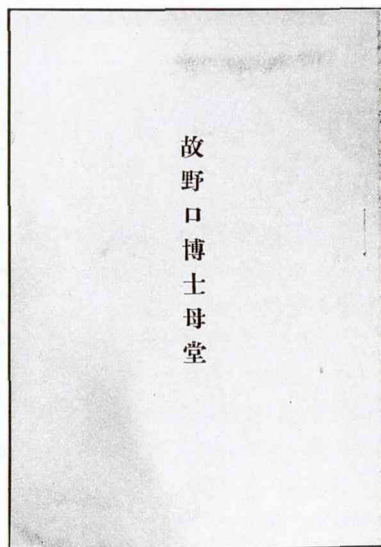


図8：星 一：故野口博士母堂。
竹馬会(?)，1928

で第12版(1944年)を重ねた(図10)。その間、第8版からは、初版から続いていた冒頭の石膏像が2頁に移り、そこが奥村がニューヨークで野口から贈られた肖像に変っている。なお表紙は野口の署名(図9 右、図10 左)、背表紙は血脇守之助の筆に成るものである(図10 右)。また編集協力者の中に福島秀策(後の東京歯科大学学長)の名前が見える。ついでに、岩波書店が本書の宣伝のために発行したものを2種紹介しておきたい。1つは35×25cmの1枚物で、各界著名人の読後感が掲載されている(図11)。発行日は記されていないが1933年と推定される。他の1つは、これに加えて多くの人の読后感想をまとめた32頁の小冊子で、1934年5月20日に発行された(図12)。巻末の奥村の“思ひ出づるまゝに”は貴重である。両者とも現在では入手不可能と思われるので、特に前者は縮刷複製することにした。なお本書は1976年に、生誕100年を記念して野口英世記念会から複製出版された。

5) Eckstein, Gustav : Noguchi, PP. 1 ~ 419. Harper & Brothers Publishers, New York & London, 1931. (図13)。4)の奥村本と共に、野口英世の伝記の双璧をなすものである。奥村本の約2年前に発行されており、奥村本を編纂するにあたってこれを参照したことが明記されている。



図9：奥村鶴吉：野口英世。岩波書店，初版，1933
左：ケース
右：表紙

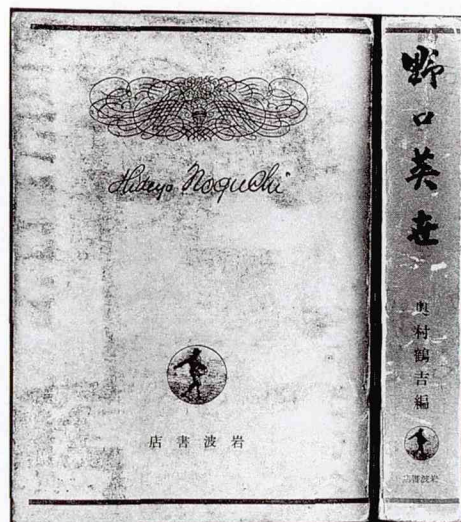


図10：奥村鶴吉：野口英世。岩波書店，12版，1944。
ペーパーバック。
左：表紙
右：背表紙

し、逆に奥村は本書の起稿の際にエクスタインの取材の手伝いをしている。表紙の“至誠”は野口が1915年(大正4年)9月12日猪苗代町の江戸亀旅館で開かれた竹馬会同窓の歓迎会の席上で書いた寄書から採ったものである。なおこの本は、枝が米国に留学中、1968年3月21日 IADR 学会に発表のためサンフランシスコを訪れた際、古書店で発見し購入したもので、\$3.50であった。

日本青年館理事 田澤義鋪

が、その面白さといふのは、普通の小説の面白さではない。所謂軽い氣持で読める面白さではない。讀者の心に強くのしかかつて来る、讀者の心を奪はずにはおかぬといふた迫力を持つた本である。私はこの本から異常な感激を興へられたと同時に、幾分の憤慨をも感ぜしめられたのであつた。

[illegible]

女の一切を捧げての母性愛である。酒酣し歌興の強い、勤勞を厭ふ夫をかくして養育する中に、野口博士を育てて行く、そしてその非凡の才能を認めて之が大成を期す爲めに、自分は極度の忍苦の生活に甘んずる。その崇高な母性愛は、促々として讀者の心に迫つて来る。殊に長く異域にあつて

百萬言を費やすも一讀に如かずとは眞に本書の如きを言ふ。一讀過、讀みて感奮せざるものは絶對になかるべし。讀むとの一日早きは一日早く生活に感激を生む。

む

年館理事
田澤義鋪

審判する博士を思ふ一念、彼等が一種の模範の信仰となつて現はれ来るべき、金と銀とくして讀むやと出来る救である。

だが母性教育の普及は、今切つたところではない。これに類する事例は、外にも探せば求むるところが出来ないであらう。本書を讀んで興へるゝ第の感激點は、野口博士の一人の恩師が、博士に對した、親愛の心こそ、世にも珍しく尊いものである。それは、博士も高等小學校時代の先生で、村林塾長である。少年時代の博士の非凡さは、博士の一生の學業の補助として小林氏は、博士の生活を通じて、常々心の師であつたのみならず、
また、その爲めに、

陷である。博士はその青年時代に於いて面に寸餘の筋毛にて對差する癖に持つてゐたことは浪漢の終末來を爲す爲に、後氏は彼の妻たる女衣殿を自らに替へて彼に與へ上つた洋行の費用を、苦役別働隊に使つて了つた。浪漢浪漢氏は、俄かに金の無手にしなせに至つては、位が惨憺憤慨の念にその良心をかきまわすほどの思ひ入りの當然であらう。己の秀才としての見地の浪漢の態度と、自分の秀才振りを材料に、他人多量の援助平氣で要求した其の「後」青年時代の初期には、置り方の中に私を捨て憤慨せしめ、其の爲に多少なりとも劣敗者であつた方面に於いてこそ最も劣敗者であつた

學界と研究家と、實に大船屋の野口家とを起點とするの出来なつてゐる。今人は、博士を東京に於ける猶つてである。一切の學問と、益々科學醫藥の血脈と博士の爲に血の出る處といふ其の財源と博士の爲に血の出る處といふ其の援助を常と爲さねば、精神の指導と振興とは勿論云ふまでもない。

小林氏と云ふ血脈氏とひとひ、自己を忘れ

ての天啓を愛する。その愛する子孫達で非
凡の天才を生み、それによって、極度の
犠牲を甘受すると云ふ故に、愚態は、全
く性の至善といはねばならぬ。本書は、與
る教訓のついでには、云ふまでもなく、
舊約聖書の説があるが、こゝ二人の博士
士に対する一統したと思ふ、私の本著に解
で最も心を費されたのは實にこの點に
あつたのである。殊に博士の青年時代の
行爲が、非常すべき少くなく、その人の
道徳たるべきこと、この人とは神學上先覺
の對照し、全く地上のものに思ひ立つ
ほどの尊さを感じた上に感心して、

博士が、小林氏夫妻に、父上様上様
と呼び、母上様には三姊妹の母と云ふ
で、母と尊んでゐるから、血縁の上に對
して恩人とするの敬意を極度に拂へる

の點を尙つて一切の行動を押し、主人公
の缺點を知つてゐる。又小林氏血脈をして
かゝつてゐる。小林氏血脈をいして
よく知られてゐる。二例は何れも、こゝ
に博士の側に、一、何れ何れといふ
ものとしても、愛せざるはおれぬといふ
いものをも分けて持つてゐることと思は
ねばならぬ。

ともあれ、私はこの本を讀んだ異常な
感激と、多大の教訓を受けたし、しかも
その感激と教訓は、私の心を底からし
りり動かすところ、私は世々多きを見て
追つて来た。私は世々多きを見て、青年
も、中年も、老年も、總ての人々に、た
しかに同様老死を待つであらうことを
確信する。かくて私は、この書を一人で
も多くのうゝ々に讀まふことを望むせざ
るを得。

大友成義博士より

その船腹に正に居るべしと断言してゐる。この後までもたはなつたが、船客との間のつきつき情状、先づ最大の遺憾之處、こそ私に對してと本書の興味に最大の差があつたのである。

私は前に本書を讀んだ數々の感處のうち、幾分の幾分とを感ぜしめられたと云ふたが、その幾分の幾分とは何であつたか、それは「家庭讀本」として讀んだ（後掲）『倫敦の

（前掲）
矢野龍溪氏云、此種小説を讀むと通關

近來英米の感觸を覺るべき讀物として、深く
感觸に當つた讀物を讀むのにも并ばず、一同
折々と不愉快な點を感ずるものと云へば、一

一讀に如かずとは眞に本書の如きを言ふ。奮せざるものは絶對になかるべし。讀むこ日早く生活に感激を生む。

醫學博士 秦左八郎

福島の猪苗代湖畔の三城湖といふ一聚村に素戔瓊杵が如き水呑百姓の兒とて生れし。幼きに左手の働きを失ひたる野口清作が如何にして斯くも驚天動地の偉業を成し、世界の學者野口英二と欲するなるかは、誰人にも大に知らんと欲するなり。

×

世の謎を解くべく野口博士の樹立を傳へんことを文藝界の義に米入エタスダ氏ら共々文藝雑誌「フダガキ」あり。同氏の此の編輯事業に當りては野口の譯力を疑はざる爲め毎々日本より時輩の行状の友を海内に訪ひ其學友と東京に會して

野村博士の知友たる吾人は氏の此の努力に對し深く感謝の意を表する者なりと雖も氏は生前野村博士と餘り親交なく且つ一打年餘にして漸く實情を窺ひ、而して發刊早むるに於て正體なる小説の蒐集に努め鋭敏なりしを以て、

然るに今野口博士と多年の親交ありたる興行博士により公せられたる「野口先生」は正確にして懸念なき資料なりと數年上るに於て野口博士の努力によりて明らかにせる結果は興行博士の著し内容のモットセといふものと要するを異する言を要する所にもし野口博士の正しと推賞しに堪らざるものなり。行文穏健にして流暢、列強に對する態度、至仁至慈なる師友の情、親愛の醇厚なる知友の友誼、種々の事蹟よく述べ、誰かよく之を讀むる人は得ん哉。この「師」の語、この語を讀むる人は清く哉。この名を讀むるは尊むる丈のの響の起る事、ことは容易に首肯し得る所なり。

無きなる後には如何にして東京方面で知

は、これにて、戦艦の「神速」を失はせ、一
 隻の望しかりなき渡米に意を決し、英艦を排し
 て之を敢行し、しかも事志と違ひ異域に在
 りて孤立無援の窮境に陥りたるのみは能く
 天與の試練に耐へ、救ひの神の手は伸べら
 れたるに乘じて頼人の努力奮闘を爲し終へ
 ロックフエラー研究所の重鎮となるに至れ
 る條讀む者をして感激を握ぶ船はざらしむ

又學術上幾多の難問を解決するの勞自己の修養に努めて常に處世の難關に善處し、殊に南阿の瘴地に學問の犧牲として逝けることは全く人生に對する教訓を與ふるもの

博士 秦 佐八郎

年者の
るなり
農科
ひたる
しかも
博士に
す。然
自然に
に傳授
と讀者

本傳は故上の也野口博士の一生に於ける
南洋南洋の詳載是處にて彼の長短兩所を
能く其の全貌を寫したるものなれば一面
料料體に生れたる不幸の故々世界
の人に達したる偉き奮闘記に絶

野口英世傳を讀む

野口英世博士の傳記を大小なく通
せると
せると

あるに於てあるが、今度奥村國吉君にて著したる傳を血脇校長より寄らせられたので、當分の爲めに讀んで見たが、今度のは概卷あることを感じた。その分爲の大なる點がある。その敘事の點において、皆これくらい、偏した井然たる點において、皆これくらいに立つてゐるが、特に私に喜ばしめるは英世博士自身が自家の野趣を益益と綴つてゐる。それは博士自身の素人の輕

[illegible]

博士の更に感ずるところはよくもあれ程の渾身の書簡を、恩師に又父母に寄せてゐるのだと思ふ。あの研究に寸疎を惜む人に、謝恩の誠意が無ければ斷じて出来ない、業であらう。今日の偉い光榮を放つ所には、立止むべきだけの確の確となつてゐる。所にあ

發行所 東京神田一ツ橋
振替東京二六二四〇

博士には、傳の著述に異常の努力を拂ふのみならず、出版、複製を目標として、實上その著す印は既にこれに野口金館の建設費の補足に供せられんとは此の好著を手に入れたる讀者は日本の主たる世界の學者の記念事業せらるるものといふべし。茲に著者と對し深甚の敬意を表す。

如何にも豊富なものである。この傳記は博士の自叙傳といふも決してない。凡傳記は己れ自身偽らざる告るの上に可なるものはないが、この本人の自家告白が材料となつて、博つともよく識る奥村君によつて編さるから、如何にもゆい所に手が届て、博士の自ら説き及らない所は皆よつて補はれてゐる。撰者にその人

も、この傳を待たず見知られたる國で、
人に愛するの實情を知られて、悲愴志
士たる人にも可成り慰められたり。然
るに醫學博士は、食料の貧乏を生ぜし
の折に生に火觸して終に其の命を失は
るに至り、發狂の體を遂に成つた。其
の由に國に門の研ぎを不慣れ、遠く歩
に占むと共に其志は益々衰へ、
祖國に歸り醫業に從事はんとしたる
に、遂に社會に處するの方便と爲し
に、此の非難を免れつと國を斷念せし
を、知り、研究のために筆を擧げ、大

整備したデンマークに遊び、終に世
豪として人類の恩人た然とする大
し、幾多世界の科學者が註としたも
し、果して世界人類の恩人たるの名
するに至つた。これが歸島縣の寒村
たるに不具の少年であることを思ふと、
如何に大切であるかは博士の傳が如
てゐる。

波書店

發行所
東京神田一ツ橋
振替東京二六二四

岩波書店



図12：奥村：野口英世の宣伝用小冊子。
野口英世博士記念館創立事務所，1934

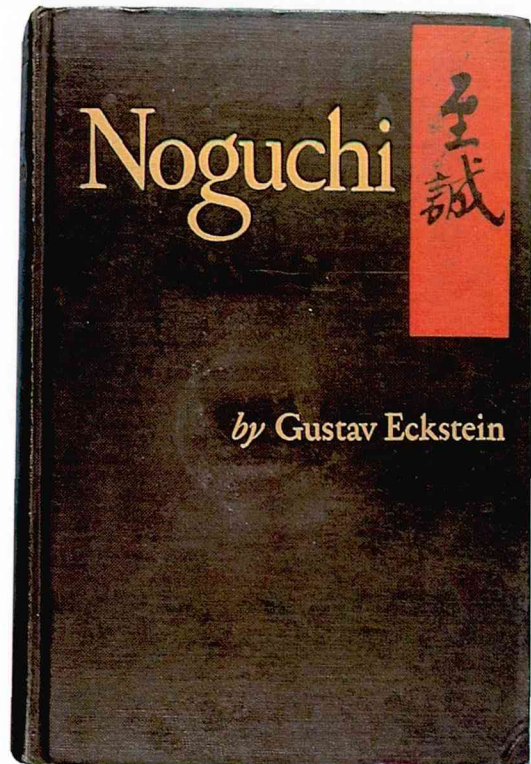


図13：Eckstein, G.: Noguchi.
Harper & Brothers Publishers, 1931.

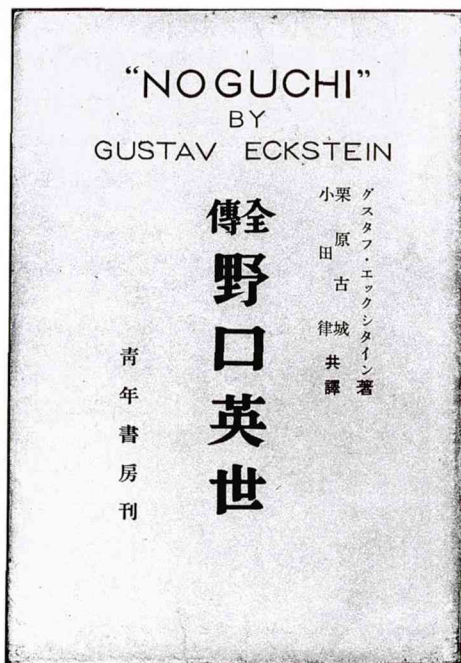
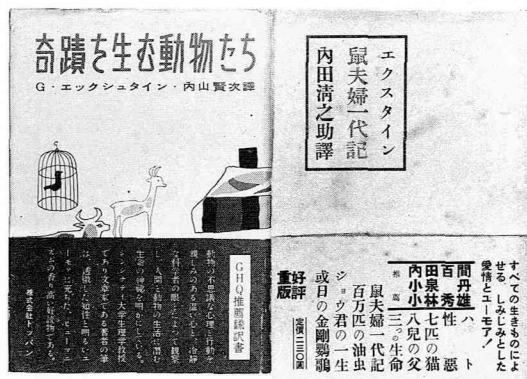


図14：エックスタイン著，栗原古城，小田律共訳：
全伝野口英世，青年書房，1939

6) グスタフ・エックシタイン著，栗原古城，小田律共訳：全伝野口英世，434頁，青年書房，東京，1939，(図14)，5)の全訳である。1932年11月と12月の「日本読書協会会報」No. 133とNo. 34に2回に亘って掲載されたものに補筆訂正を加えてまとめた。口絵に「Hideyo Noguchi, September 23, 1925 New York」とサインの付いた野口の写真がある。これは原書や奥村本にもない新しいもので，後述の「日本文化人切手」第1号の基になった重要な写真であるが，サインの日に撮ったものではなく，1918年（大正7年）頃にエクアドルで撮影したものらしい，稀覯本。

ここでエクスタインにふれておきたい。彼は1890年に歯科医の家に生れ，医学をおさめて，シンシナティ大学医学部の生理学教授になった。随筆家でもあって，著書も多く，日本でも「野口英世」の他に次の2書が訳されている。

i) 内山賢次訳：奇蹟を生む動物たち（原名 Everyday Miracle：直訳，毎日の奇蹟），227頁。



(左) 図15: G. エックシュタイン・内山賢次訳:
奇蹟を生む動物たち, トップン,
1950 (帯)

(右) 図16: エクスタイン・内田清之助訳: 鼠夫
婦一代記, 中教出版, 1951 (帯)

トップン, 東京, 1950. (図15).

ii) 内田清之助訳: 鼠夫婦一代記 (原名 Lives: 直訳, 生命の数々), 231頁, 中教出版, 東京, 1951. (図16). なおこれら2書とも "Noguchi" と同じ, Harper & Brothers 社から出版されているのは興味深い.

7) G. エクスタイン著, 内田清之助訳: 野口英世, 355頁, 野口英世博士伝記刊行会, 東京, 1958. (図17). 内田は鳥学者であるが若い頃は蝶やトンボの研究をしたことがある. 先の "鼠夫婦一代記" を訳した関係から "Noguchi" を訳すことになった. 表紙は野口の自筆, 背文字は星一の書から採ったものである. 珍本.

8) ガスタフ・エクスタイン著, 内田清之助訳: 野口英世伝, 298頁, 東京創元社, 東京, 1959. (図18). 7) と同じ, 口絵とあとがきの最後が若干違っている.

9) エクスタイン著, 内田清之助訳: 野口英世伝, 中野好夫, 吉川幸次郎, 桑原武夫編, 世界ノンフィクション全集36, 259~373頁, 筑摩書房, 東京, 1962. 7), 8) の80%ぐらいの抜粋である. 全50巻.

10) エクスタイン作, 宮下正美編: 野口英世伝, 志賀直哉他7名監修, 世界の名作図書館45, 7~98頁, 講談社, 東京, 1968. 原訳文を要約し子供向けに書き直したもの. (後の子供向け伝記の項に入れるべきものかも知れないが, 著者を主に考えて

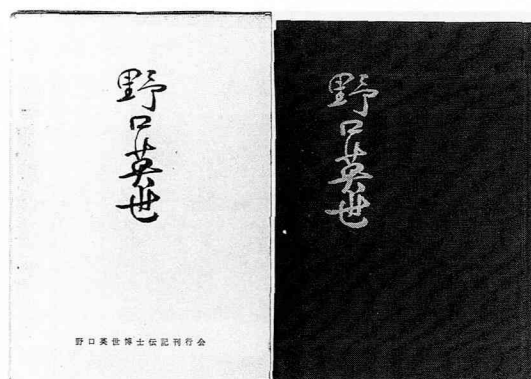


図17: エクスタイン著, 内田清之助訳: 野口英世.
同伝記刊行会, 1958
左: ケース 右: 表紙

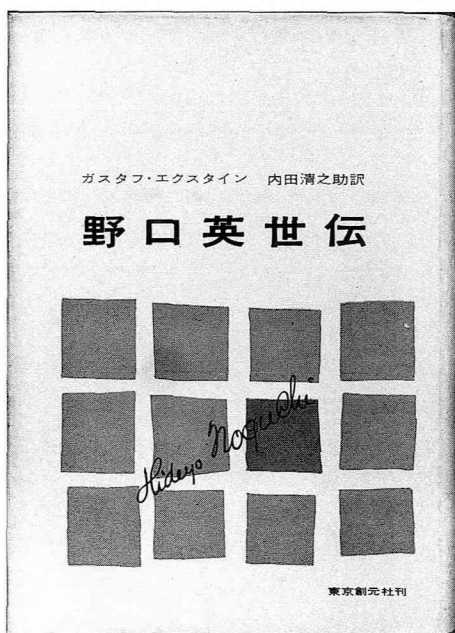


図18: エクスタイン著, 内田清之助訳: 野口英世
伝, 東京創元社, 1959 (カバー)

ここに入れた.) 全52巻である.

次に野口英世 (博士) 記念会 (東京) の出版物をまとめて掲げる.

11) 土井晩翠著, 野口英世博士記念会編: 野口英世頌, 90頁, 1939, V. (図19). 普通の文章は, 序文がわりに東京朝日新聞 (1930年12月18日) に掲載された "野口英世の生家を訪れて (野口記念館の設立を希望す)" があるだけで, 主体はすべて

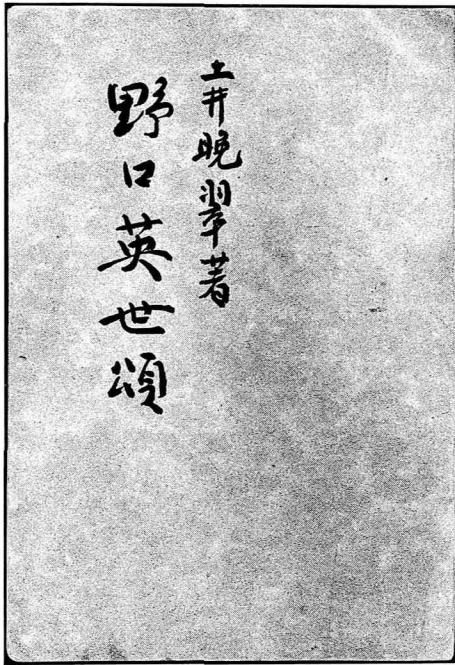


図19：土井晩翠：野口英世頌，野口英世博士記念会，1939

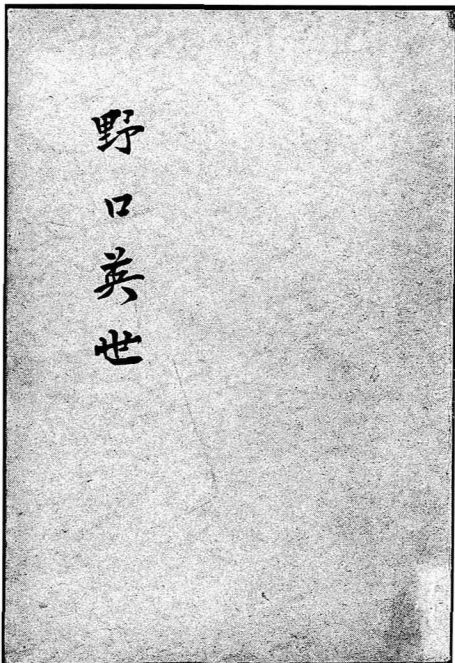


図20：野口英世博士記念会編：野口英世，1939



図21：野口英世記念館案内
左：1954年版 右：1974年版



図22：野口英世記念会編：野口英世少年期。
左：初版，1959
右：30版，1980（ハードカバー）



図23：野口英世記念会編：野口博士とその母。
左：初版，1959
右：27版，1975

詩から成っている。表紙は恩師小林栄の書である。稀書。なお本書のドイツ語版があるが未入手。

12) 野口英世博士記念会編：野口英世，84頁，1939，vi. (図20. 11) の1か月後に，“野口博士記念館”の建設を記念して発行された。表紙題字については明記されていない。稀観本。

13) 野口英世博士記念会編：Hideyo Noguchi. pp. 1~79. 1940 (初版)，1980 (再版) 口絵の写真は違うが，12)の英語版である。M. 若林が英訳したとある。

14) 野口記念会編集部編，石塚三郎著：野口博士不滅之精神，野口英世博士記念館案内，52頁，1954。(図21 左)，同上記念館設立25周年記念出版である。表紙題字の明記はないが石塚三郎の書と考えられる。

15) 野口英世記念会編集部編：野口博士不滅の精神，46頁，1955(初版)，1974(18版，図21 右)，14)を改訂したもの。表紙写真は1915年(大正4年)10月17日，東京歯科医学専門学校の高山紀斉の胸像前で血脇守之助と共に撮ったものである。

16) 野口英世記念会編：野口英世 少年記，186頁，1959 (初版，図22 左)，1980 (30版，ハードカバー，図22 右)

17) 野口英世記念会編：野口博士とその母，180頁，1959。(初版，図28 左)，1975。(27版，図23 右)，後出の30) 宮瀬睦夫の“野口英世の母”を加筆訂正しさらに文章も平易に書き改めたものである。

18) 野口英世記念会編：野口英世伝，249頁，1963。(図24)殉職35年を記念して刊行されたもので，30×21.5 cm と大版である。編集委員の中に福島秀策(当時，東京歯科大学学長)の名前がある。あとがきに「野口英世博士に関する伝記は，数多く刊行され，ひろく読まれている。小学校向けのものだけでも，その数と種類を挙げることは難しいほどである。しかし数多く出版されている反面，博士の生涯と事蹟を正確に伝えた定本というべきものは未だ極めて少ない。奥村鶴吉氏の編纂に成る「野口英世」(昭和8年，岩波書店版)は，資料の豊富さ，行きとどいた叙述からして，最初の定本とも呼ぶことができる名著である。しかし，この本でもはおかつ，事実に関して誤った記述もある。……」とある。自信ある伝記ということか。

19) 野口英世記念会監修：野口英世の生家を訪

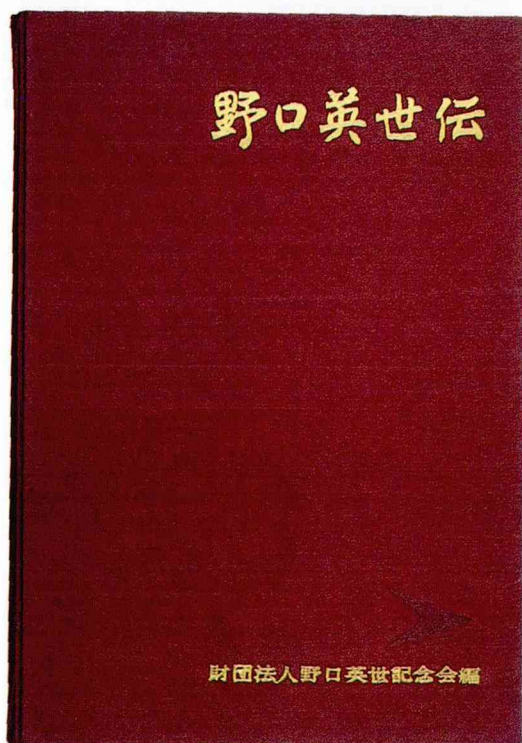


図24：野口英世記念会編：野口英世伝，1963



図25：野口英世記念会監修：野口英世の生家を訪れて，1974



図26：滑川道夫：少年伝記 野口英世，野口英世記念会，1978



図28：橘 輝政：野口英世博士伝，山水社，1946

れて，34頁，1974。（改訂初版）。（図25）

20) 滑川道夫：少年伝記 野口英世，152頁，野口英世記念会，1978。（図26），後出の76) 少年少

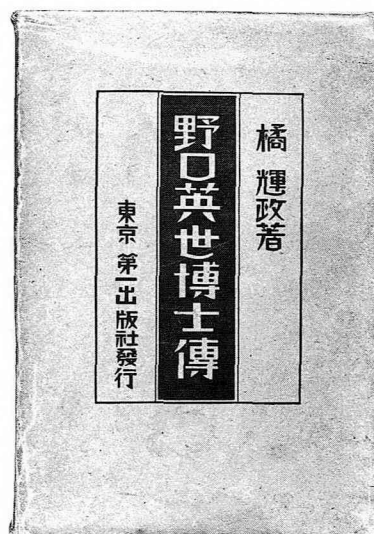


図27：橘 輝政：野口英世博士伝，第一出版社，1929（ケース）

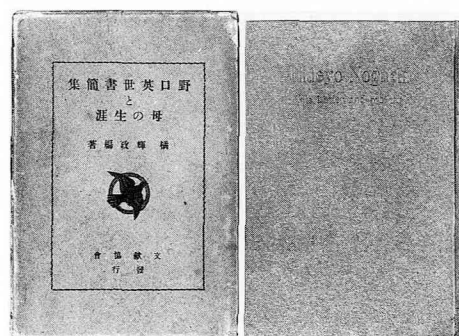


図29：橘 輝政：野口英世書簡集と母の生涯，文献協会，1931

左：ケース

右：表紙（Hideyo Noguchi His Letter and Mother とある）

女世界伝記全集15，講談社とほぼ同じである，表題の通り子供向き。

21) 野口英世記念会編：野口英世博士生誕百年記念誌，281頁，1978。（図1）。冒頭に紹介した通り，生誕100年の記念行事の記録を主目的として発刊されたものである。1976年11月11日，東京プリンスホテルのマグノリアホールで開かれた東京会場には，当時の東京歯科大学松宮誠一学長が出席して祝辞を述べている。また1977年8月3日に行なわれた，ロンドンのウェルカム医学博物館に保



図30：橋 輝政：野口英世書翰と母の生涯。山水社，1941

管されていた野口の肝臓6点，腎臓4点の病理組織写真の検討会には，東京歯科大学病理学山村武夫教授も参加している(251頁)，1,000部限定発行の非売品。

次に再び著者別に順次紹介する。

22) 橋 輝政：野口英世博士伝，199頁。第一出版社，東京，1929。(図27) クロス，ケース付。

23) 橋 輝政：野口英世博士伝，210頁。山水社，東京，1946。(図28)。22) とほぼ同じであるが，敗戦の翌年に出版されたものだけに，紙質も悪くペーパー・バックである。表紙の“忍耐”は野口の書から採ったもので，彼の好きな言葉の1つ。

24) 橋 輝政：野口英世書簡集と母の生涯，159頁。文献協会，郡山，1931。(図29)。

25) 橋 輝政：野口英世書翰と母の生涯，185頁。山水社，東京，1941。(図30)。24) に増補したもの。翰の字が異なり集も付いていない。

26) 橋 輝政：物語 少年野口英世，212頁。山水社，東京，1941。(図31)

27) 橋 輝政：物語 少年野口英世，210頁。山水社，東京，1949。戦後版なので紙質が悪く，ケー



図31：橋 輝政：物語 少年野口英世。山水社，1941 (ケース)

スもない，2頁足りないのは190～192頁の大日本帝国，アメリカかぶれ，大和魂などが出ているところを削除したのである。なおこれら山水社版(23，25，26)は3部作を構成する。

28) 小泉 丹：野口英世，187頁。岩波書店，東京，1939。(図32 左) 岩波新書赤版43である。本書はよくまとまってお手ごろな新書版ということもあって戦前のベストセラーになった。手元の資料では1941年に第5刷が出ているが，第6刷が戦中版なのか戦後版なのか不明である。

29) 小泉 丹：野口英世 (改稿版)，227頁。岩波書店，東京，1949。(図32 右)。28) の戦前版と体裁も似ており，第7刷としてもあるが，内容は大幅に追補して書き改めたものである。なお小泉は，野口と同郷で慶応義塾大学医学部教授(寄生虫学)であった。彼は訳本として“チャールズ・ダーウイン”(1927)，“メンデル：雑种植物の研究”(1928)これらは共に岩波文庫，随筆集として“視界”(岩波書店，1938)，“眉毛眼上集”(改造社，1941)など多数を出している。

30) 宮瀬睦夫：野口英世の母，210頁。第一出版協会，東京，1940。(図33 左)。173～210頁は付録“野口博士母堂小伝”である。

31) 宮瀬睦夫：野口英世の母，172頁。淡山書房，



図32：小泉 丹：野口英世，
岩波新書43。
左：初版（1939）
右：改稿版（1949）

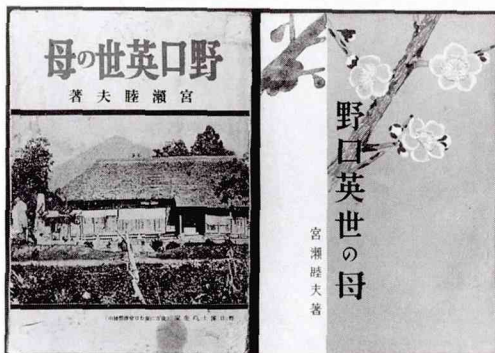


図33：宮瀬睦夫：野口英世の母。
左：第一出版協会（6版），1942
右：淡山書房（初版），1949

東京，1949。（図33 右）表紙は違っているが30）とまったく同じ，頁数が少ないのは“野口博士母堂小伝”が削除されているからである。

32）宮瀬睦夫編著：野口英世と小林先生，305頁，第一出版協会，東京，1941。（図34）。小学校時代から終生，野口と接した恩師小林 栄についてもかなり詳細に記してある。なお本書の見返しに“謹呈 松戸村長様 昭和十八年六月 高瀬拝”の筆書き署名がある。

32）宮瀬睦夫：野口英世，290頁，新潮社，東京，1942。（図35）。新伝記叢書の1つである。

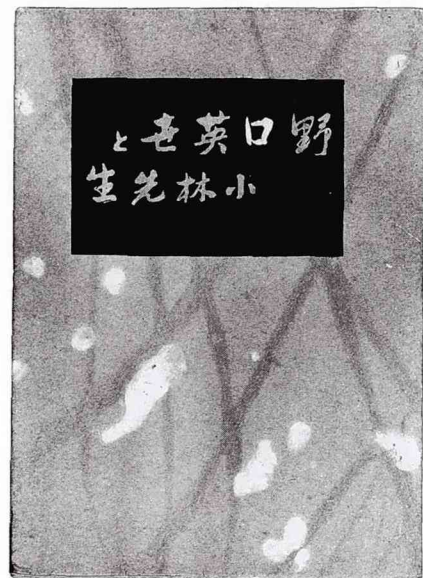


図34：宮瀬睦夫：野口英世と小林先生，第一出版協会，1941（ケース）

33）宮瀬睦夫：野口英世の手紙，681頁，愛亜書房，東京，1943。（図36）。書名は大きい，内容は，野口と小林 栄と往復書簡である。戦争末期の昭和18年11月20日にこれだけのものが出たことは素晴らしい。英語が不自由な小林先生のために，



図35：宮瀬睦夫：野口英世，新潮社，1942

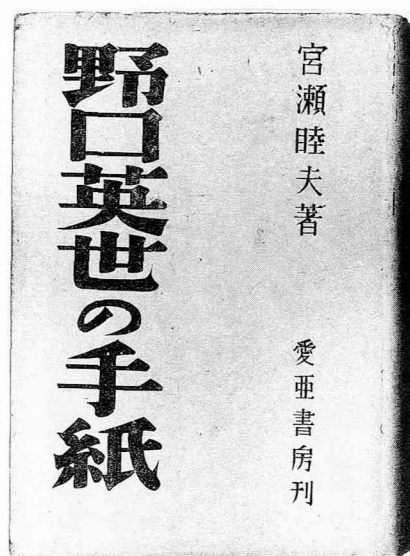


図36：宮瀬睦夫：野口英世の手紙，愛亜書房，1943

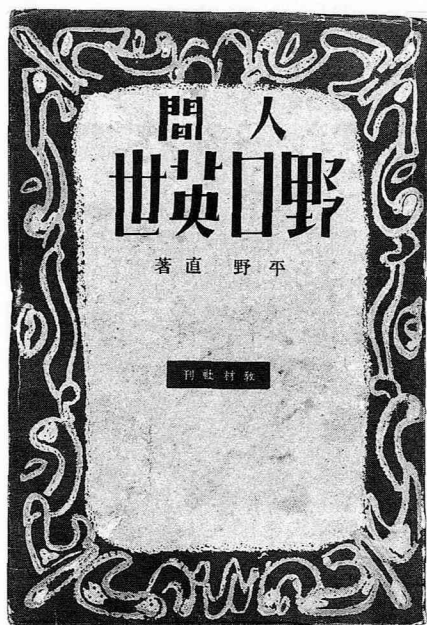


図37：平野 直：人間野口英世，教科社，1941



図38：寺島証史：日本科学者物語，文松堂，1942

戦争のため中断してしまったのは残念である。

34) 平野 直：人間 野口英世，312頁，教科社，東京，1941。（図37）。あとがきに，奥村，エックシタインの両書をもとに，天才野口ではなく，人間野口を書こうとしたのだとある。

35) 寺島証史：撓めぬ闘志 野口英世，日本科学者物語，299～322頁，文松堂，東京，1942。（図

アメリカの野口宛の手紙用に英語の住所氏名のゴム印を作ったとは微笑ましい，血脇守之助他との往復書簡も続編として出す予定だったらしいが，

を読んで戦後に書かれたものであることが判る。

40) 石塚三郎：わが友 野口英世, 123頁, 社会教育会, 東京, 1953 (初版, 図43 左), 1956 (6版, 図43 右), 青年シリーズIIIとして発刊された。本書にだけ並製本と特製本があり, 前者はペーパー・バック, 後者はハード・カバーである。図43 左の初版は並製本, 同右6版は特製本である。内容はまったく同じである。石塚は高山歯科医学

院で野口と共にいわゆる学僕として働き勉強し, 後に衆議院議員 (歯科医師として最初) および東京歯科大学の理事となり, さらに野口英世記念会の理事長となった。先に14) に紹介した野口英世博士記念館案内の著者でもある。

41) 石塚三郎：野口英世博士の生涯, 関山英夫：若き日の野口英世, 野口英世略歴, 高久茂編：切手になった日本文化人, 39-44, 44-48, 49-50



図42：橋爪 恵：日本医学界の三星 野口・高峰・北里, 弘学社, 1949



図44：高久茂編：切手になった日本文化人, 一二三書房, 1954 (普及版)

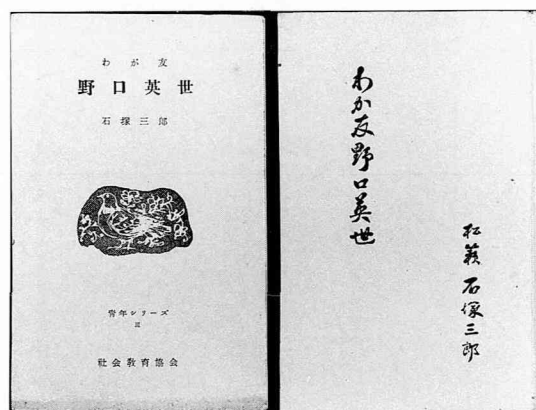


図43：石塚三郎：わが友野口英世, 社会教育協会
左：初版, 1953 (ペーパー・バック)
右：7版, 1956 (ハード・カバー)



図45：日本文化人切手第1号, 1949年11月3日発行

頁、一二三書房、東京、(図44)、1949年(昭和24年)11月3日(文化の日)から1952年の文化の日までのまる3年間に“日本文化人切手”シリーズにおいて18人18種の切手が発刊された。その第1号に選ばれたのが野口英世である(図45)、6)でふれた如く、これは1918年頃エクアドルで撮影したと考えられる写真をもとに木村 勝画伯が原画を作製し、加藤倉吉が原彫刻をしてきたものであ

る。なお本書には、家永三郎：文化切手主題人物の選定について、230～233頁も載っている。

42) 船木武雄：野口シカ物語、327頁、医風館、東京、1963、(図46)、奥付に“協力 財団法人野口英世記念会”としてあるのは著者が同会の常務理事だからで、本書は主として野口記念館で販売された。

43) 筑波常治：野口英世 名声に生きぬいた生涯、236頁、講談社、東京、1969、(図47 左)、講談社現代新書175 著者は科学評論家で自然科学史専攻ということで、この伝記もかなり冷静に野口を描いている、とくに野口に対する血脇守之助の役割をきわめて高く評価していることは注目すべきで、さらに血脇についてもかなり詳細に記している。また最後に野口の“自殺のうわさ”にもふれている。1980年には装いも新たに再版がでており(図47 右)、本文は同じであるが、“再版あとがき”は重要である。

44) 小村剛史：偉大なる科学者 野口英世伝、383頁、新紀元社、東京、1970、(図48)、日本図書館協会選定書になった。

45) 渡辺淳一：狂熱の人・野口英世。小説現代、9巻7号320—341頁、1971、(図49)、最初に、昭

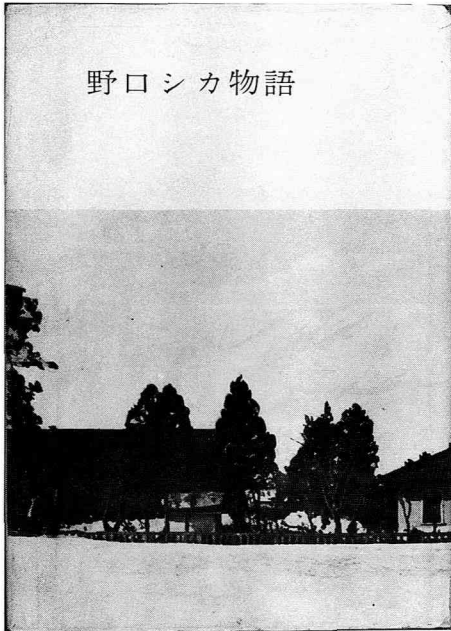


図46：船木武雄：野口シカ物語、医風館、1963

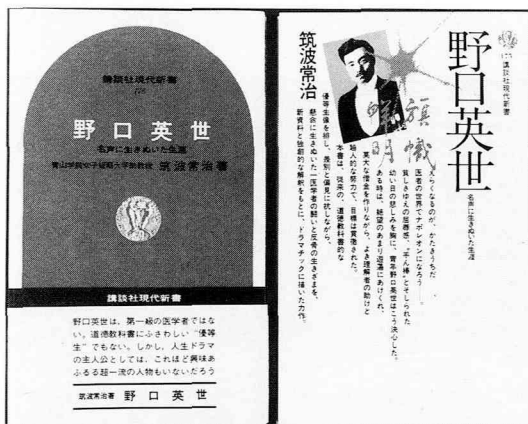


図47：筑波常治：野口英世 名声に生きぬいた生涯、講談社
左：初版、1969(帯) 右：再版、1980



図48：小村剛史：野口英世伝、新紀元社、1970(帯)

和40年の中央公論7月号に載った“近代日本を創った科学者10人を選ぶ”という特別企画の中で、医学界からは志賀 潔（赤痢菌の発見）と山極勝三郎（人工癌の発生）の2人が選ばれただけで、野口英世がなぜ入らなかったかを述べている。つまり彼には評価できる業績がないというのである。また最後に、“ヤングと現地の医師は、必死の看病を続けた。黄熱は1週間がやまで、7日目のりきると大抵は助かる。人々の祈りがきいたのか、野口は7日目を辛うじて乗りきり、意識を回復した。もう大丈夫だとヤングは安堵し、現地人は小踊りして喜んだ。

8日目の夜、野口は熱の下ってきた体をベッドから起すと研究室に行き、黄熱患者から採取してあった血清を自らの足の血管に射し込んだ。

野口の容態が急変し、死亡したのはそれから2日後の1928年（昭和3年）5月21日の正午少し過ぎであった。

「こっけいな野口」

彼はその一言を吹き、現地人に看取られたまま、アフリカ・クアラの病院で死んだ。享年53歳であった。”と結んでいる。クアラはアクラの誤植。

46) 渡辺淳一：遠き落日，上，下，262頁，260頁，角川書店，東京，1979。（図50 左右）。著者が45)を骨子とし、1975年1月号から1978年7月号

までの「野性時代」に43回にわたって連載したものに加筆して2冊にまとめた小説である。史実に立脚しており、推奨できる伝記小説といえる。本書では45)と違って自殺にはしていないが、自殺説と他殺説があると記している。

47) 斎藤 栄：Nの悲劇，299頁，講談社，東京，1972。著者快心の書き下し本格長編推理小説である。Nは野口のイニシャルで、扉に“この一書を、偉人野口英世を敬愛してやまなかった亡き父の霊に捧げる”とあり，“序章 野口英世 殺された偉人 1 私は、野口英世博士は殺されたのだと信じている。その根拠にはいくつもの事実がある。”と書き出している。要するに野口が黄熱病になったのはアクラではなくその感染の恐れがほとんどない西部アフリカの都市ラゴスだったこと、野口は自殺をするような性格ではないし、45)のように危篤状態で自分に注射できる力があるはずはないこと、従って野口の名声をねたんだ秘密組織が彼を消したのではないかというのである。ただし本書の主体は別の殺人事件である。

48) 野地潤家編著：「野口英世」伝の研究，読書指導のための基礎作業，286頁，明治図書出版，東京，1972。（図4）。前にもふれたように本書の伝記目録はかなり充実している。この作成に当たっては、国会図書館、野口英世記念館、出版目録、事典等で調査したというので当然であろう。初期の英世伝、終戦までの英世伝、戦後の英世伝と、時代の推移と共に野口英世の伝記がどのように変遷したかを分析している。本書の執筆者は主として広島市の小学校に勤務する10数名の教員と



図49：小説現代，第9巻第7号，1971



図50：渡辺淳一：遠き落日，角川書店，1979
左：上巻（帯） 右：下巻（帯）

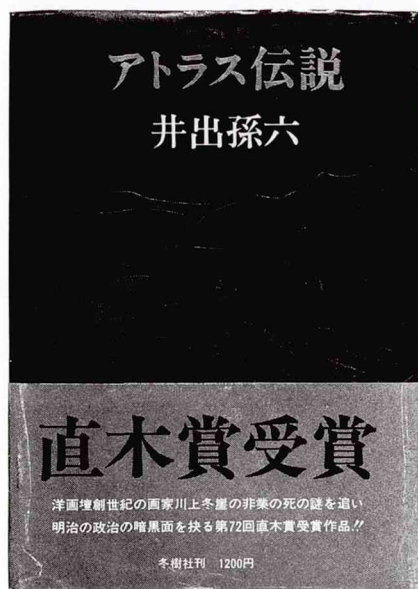


図51：井出孫六：アトラス伝説，冬樹社，1974
表紙カバー（帯）

いうこともあって、子供向けの伝記の分析が中心になっている。

49) 井出孫六：非英雄伝。アトラス伝説，7～72頁，冬樹社，東京，1974。（図51）。小説ではあるが，ここに登場するN博士とは野口英世のことで，非英雄というのは，野口の小学生時代からの旧友，八木庄助（実名：八子彌寿平）である。野口の陰の経済的援助者である八子を大きくとりあげているのが本書の特徴となっている。冒頭において，I（実名：池田宣政）の野口博士伝，K社（実名：講談社），1934（後出の62）によって，どれだけ多くの若い読者たちが，戦争への道を歩んで行ったかわからないのに，戦後，同じ著者によって，若干の訂正だけで再び出版されたことを批判している。井出孫六は長野県出身で，兄に一太郎（元農林大臣および郵政大臣）と源四郎（千葉大医学部教授），姉に丸岡秀子（評論家）がいる。

50) 渡辺淳一：虚構の多い“偉人伝説”。雪の北国から，207～210頁，中央公論社，東京，1976。

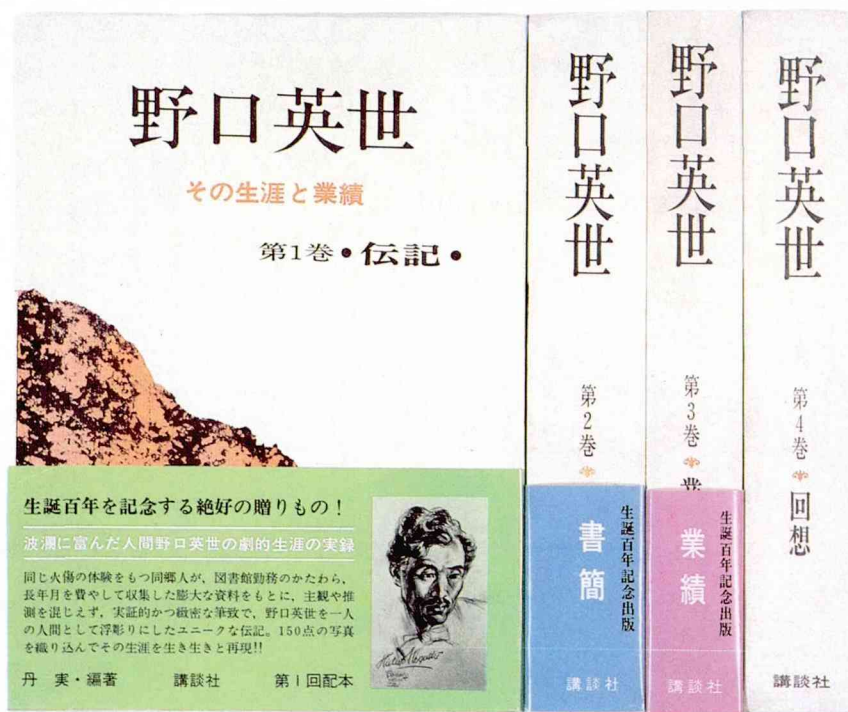


図52：丹 実編著：野口英世 その生涯と業績，講談社，1976～1977.

右：第1巻 伝記のケースの表（帯）

左：第2巻～第4巻のケースの背（帯，第4巻のみ帯なし）

医師でもある著者が、学生時代に細菌学の教科書に野口の名前がまったく出て来ないことに疑問をもったこと、そして調べてみたところ、“いま野口の業績は無に等しい。”ことがわかったことが記されている。

51) 丹 実編著：野口英世 その生涯と業績。第1巻 伝記，352頁，1976；第2巻 書簡，397頁，1977；第3巻 業績，241頁，1977；第4巻回想，382頁，1977。講談社，東京(図52)野口の生誕100年を記念して出版されたもので、従来から期待されていた業績集もこれに加えられており、この全4巻をもって野口の集大成といえることができる。第1巻の伝記には、丹実の書きおろしによる“野口英世の生涯”のほか、小林栄の“野口英世の思い出”と“野口博士母堂小伝”，野口栄の“野口英世博士の父野口佐代助の生涯”，土井晩翠の“野口英世頌”および先にふれた文献目録などが掲載されている。再版はしないとのことで、入手困難な重要文献になった。

52) 中山 茂：黄熱病の菌を見た。青木国夫他5名著：思い違いの科学史，173～184頁，朝日新聞社，東京，1978。(図53 左)。伝記というより、野口の最後の部分、すなわち黄熱病の病原体をスピロヘータと信じてしまったことを中心に話が進められている。最後は“——そして、彼の最期は自殺だったともうわさされる。”と結んである。本書は1981年に朝日選書184に編入されて出版された(図53 右)，頁が2頁ずれただけで(目次のあとに“思い違いの科学史”という扉が追加された

ため)，内容はまったく同じである。どこにも前書のことを記していないのは不親切で、これも“第1刷”としてある。

53) 中山 茂：野口英世，264頁。朝日新聞社，東京，1978。(図54)。朝日評伝選21である。51)を野口の全生涯に上げたものと考えられ，“あとがき”にも書かれているように、野口の後半世、とくにアフリカでの研究生生活に詳しい。死因について“私にはこれら自殺説，他殺説をまじめに受け取ることはできないのである。”と述べている。著者は科学史研究家(東京大学講師)でもあり、信頼できる評伝となっている。

54) 池田貞武：小説 人間野口英世，264頁。明德印刷出版，東京，1978。(図55)。促音の「っ」が普通の大きさで、また旧かな遣いも混ざっていて読みにくい。

55) 星 新一：野口英世。明治の人物誌，29～52頁。新潮社，東京，1978。(図56)。前出3)の著者星一の子息が、このSF作家の星新一である。従って本書では、野口と星一の関係が明確にしかも詳細に描かれている。最後の方に、“エクスタインの伝記には星の名がわりと多く出てくるのに、奥村

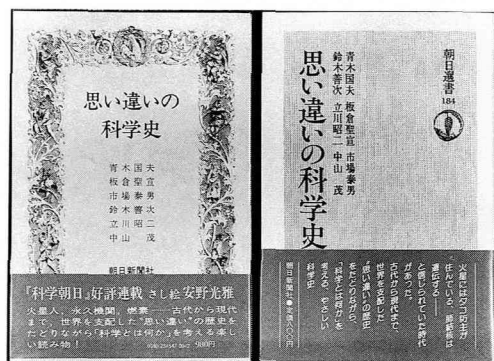


図53：青木国夫他：思い違いの科学史。朝日新聞社

左：第1刷，1978(帯)

右：朝日選書184に編入，第1刷，1981(帯)

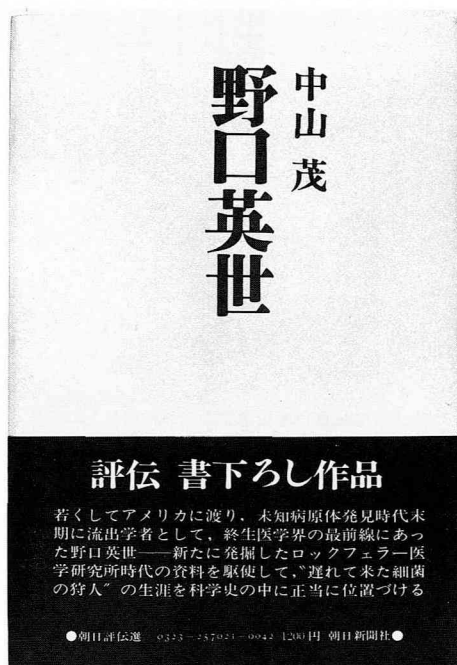


図54：中山 茂：野口英世，朝日新聞社，1978
カバー(帯)

のには3カ所しか出てこない”のは、当時、政治的に圧迫を受けていた星が、野口の伝記に登場しては、権威ある岩波書店の出版物でもあり、具合が悪かったためであろうと推察している。

56) 北 篤：正伝・野口英世，300頁，翠楊社，

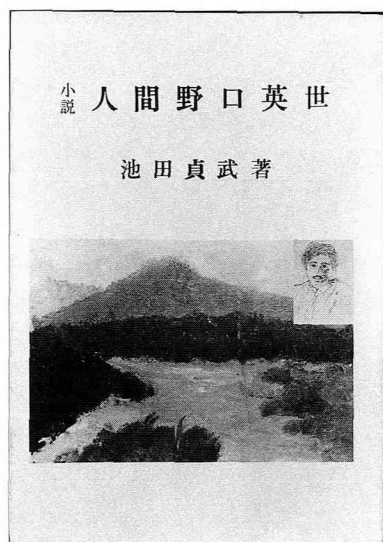


図55：池田貞武：小説 人間野口英世，明德印刷出版，1978

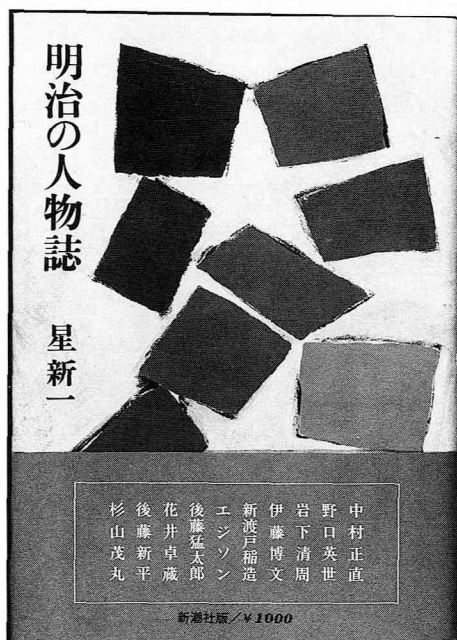


図56：星 新一：明治の人物誌，新潮社，1978(帯)

東京，1980，(図57)，郷土の研究7である。生誕100年の記念行事の一環として、地元の「福島民報」に連載されたものを、補筆して単行本にまとめたものである。最後に、野口の病死に考察を加えてみたいとして、自殺説は否定したが暗殺の可能性を認め、短いフィクションを付記している。

57) 漆原智良：野口英世，304頁，ぎょうせい，東京，1980，(図58)，世界の伝記 全50巻の中の33である。装丁がしっかりしている。

58) 門脇 弘：野口英世と生命保険，日本医事新報，2964号，71～72頁，1981。野口が29才の時に満期金6,000円(当時)の生命保険の契約をしたというものである。著者は“野口の死因はどの書物にも黄熱病となっているが、私はさる医学者が指摘しているように、反対派の陰謀で毒殺されたものと思う。”と記した。

59) 永岡慶之助：野口英世 細菌発見に生涯を捧げた医学者，吉田光邦概説：未知への挑戦者，165～210頁，TBS ブリタニカ，東京，1983，(図59)，日本のリーダー全15巻の10である。本書には、白瀬矗，郡司成忠，大谷光瑞，野口英世，北里柴三郎，井深大の6名の伝記があり，さらに高峰讓吉，田中館愛橘，長岡半太郎，志賀潔，鈴木梅太郎，小倉金之助，仁科芳雄の人物小伝が付いている。



図57：北 篤：正伝・野口英世，翠楊社，1980

頁の上方に種々な写真が掲載されているが、下の本文とは無関係なのでとまどうし、高山歯科医学院がすべて高山歯科学院と誤記されている。

60) 藤野恒三郎：藤野・日本細菌学史，野口英世の登場，354～367頁；野口英世の帰国，その後のスピロヘータ研究の発展，444～450頁。近代出版，東京，1984。大阪大学名誉教授である著者が，細菌学者の眼を通して，野口の業績を紹介し分析している。野口が黄熱病の病原体をスピロヘータ

としてしまった誤謬の原因は，エクアドル医師団の間に，黄熱病とワイル病の鑑別診断法が確立していなかったことにあり，そのため野口が黄熱病として研究した材料は，ワイル病であったと考察し，野口を擁護している。

61) 土橋治重：野口英世 物語と史蹟をたずねて，224頁。成美堂出版，東京，1984。(図60)。副題にあるように野口に関連ある場所や建物も紹介している。例えば，芝伊皿子坂，順天堂医院（順天堂大学附属病院），東京歯科大学（今は取りこわされてしまったタイル張りの建物）の写真なども付いている。主に奥村鶴吉「野口英世」と中山茂「野口英世」を参考にしたという。なお最初のカバー（図60 左）は漫画的であったが，1987年にカバーだけが図60 右のように変った。これは「物語と史蹟をたずねて」シリーズ全53巻（？）を，すべて同じ体裁にしたためであるが，奥付は前者と同じでこれも初版とあるのはおかしい

62) イザベル・R・プレセット著，中井久夫，枘矢好弘訳：野口英世，482頁。星和書店，東京，1987。(図61) Isabel R. Plesset : Noguchi and His Patrons. Associated University Presses Inc. 1980.の訳本である。著者のプレセット女史の父は精神科医で，野口英世の梅毒スピロヘータの研究に当って，進行性麻痺の材料を提供しており，友人関係であった。だから女史は幼女の頃，野口とは接触の機会があり，また父から野口の話聞かされたという。彼女は1968年に初めて来日し，

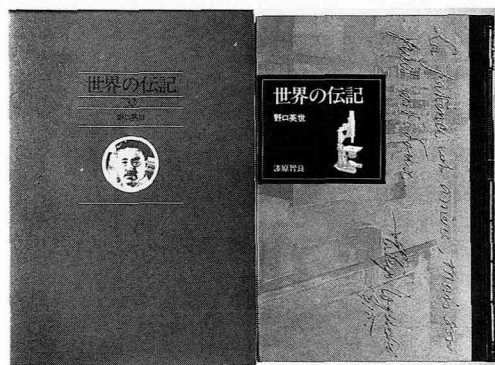


図58：漆原智良：野口英世。ぎょうせい，1980

左：ケース，右：表紙



図59：吉田光邦 概説：未知への挑戦者。TBSブリタニカ，1983（帯）



図60：土橋治重：野口英世，物語と史蹟をたずねて。成美堂出版，1984 左：初版のカバー 右：初版であるがカバーだけを変えたもので1987年に発行された。

野口に関係ある場所を歩き、その後も何回か日本を訪れて調査・取材を行なっている。またロックフェラー研究所などアメリカにおいてもきめ細かく資料を蒐集して、この伝記を著わした。驚くべきことは、奥村本(4)、宮瀬：野口英世の手紙

(33)、野口記念会：野口英世伝(18)、筑波本(43)など重要な文献はすべて私費で英訳させて参考にしていることである。本書は野口の伝記の中でも最も重要なものの1つに加えられなければならない。プレセット女史は本書を完成した約5年後、日本語版の発行を待たずに1985年8月24日に死去した。

なお、この原書の発行は、筑波本(43)の“再版あとがき”で知っており(ただし発行所がFairleigh Dickinson University Pressとなっている)、日本の書店を通して注文したが入手できないまま過ぎている。

子供向けの野口英世の伝記

子供向けの伝記において、野口英世ほど立身出世的に書かれたものはない。この傾向はとくに戦前のものに強い。従って伝記として見るべきものは少ない。以下、目録を主体とし若干の説明を付記することにした。なお表紙の写真も主なものを掲げるにとどめる。

63) 池田宣政：偉人野口英世, 371頁, 年譜5頁, 大日本雄弁会講談社, 東京, 1934。(図62)これが49)でふれた戦前(昭和9年)の伝記である。奥村の伝記に遅れること1年で、子供向けの本書が出版され、ベストセラーになった。手元には1934

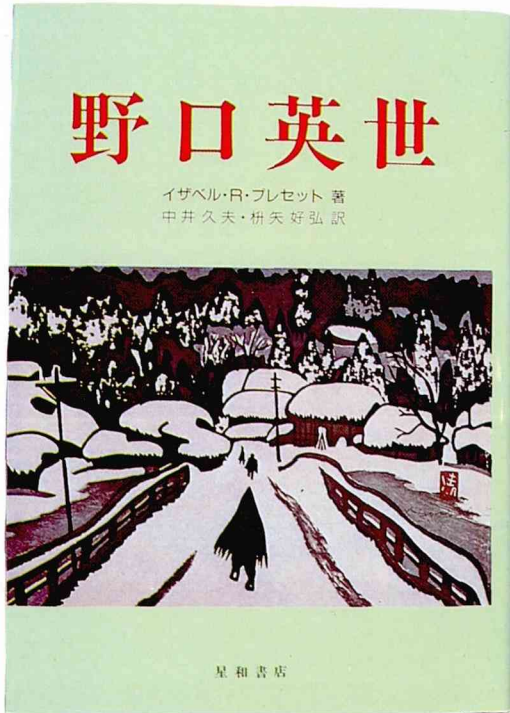


図61：イザベル・R・プレセット著，中井久夫，栢矢好弘訳：野口英世。星和書店，1987。カバー

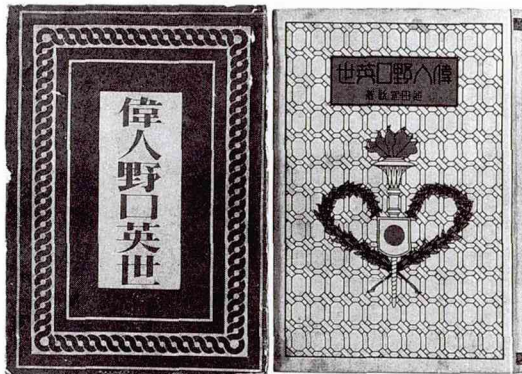


図62：池田宣政：偉人野口英世(初版)，大日本雄弁会 講談社，1934
左：ケース 右：表紙



図63：池田宣政：偉人野口英世，世界社，1947

年11月2日発行の初版(図62)と2年3か月後の1937年2月28日発行の29版がある。

64) 池田宣政：偉人野口英世，370頁(年譜を含む)。世界社，東京，1947。(図63)63)とほぼ同じ内容であるが，“……博士の一生は雄々しく勇ましい英雄行進曲であり，華々しい勝利と凱旋の軍歌である。”(序)などが削除されている。紙質は悪い。

65) 池田宣政：愛と熱の医学者 野口英世，365頁。ポプラ社，東京，1951。偉人伝文庫全24巻の1巻であるが順番は付いていない。序文は新しいが，本文は，64)とほぼ同様である。

66) 池田宣政著，荒木紀男解説：野口英世，241頁。ポプラ社，東京，初版(1965)，改定版(1976，図64)世界伝記全集40巻の第2巻である。内容は“どじょう売り”の話を削除したりして若干変っている。ちなみに，1. エジソン，3. キュリー夫人，4. 良寛，5. ケネディーの順である。

67) 篠遠喜人：野口英世，日本の科学者，98～140頁，筑摩書房，東京，1951。中学生全書全100巻の第49巻である。本書には，杉田玄白，宇田川榕菴，池野成一郎，野口英世，湯川秀樹の順で5名が載っている。

68) 高橋碩一：野口英世，日本の科学者，86～101頁。福村書店，東京，1951。中学生歴史文庫全24巻のうち日本史12冊の第7冊である。前野良澤，司馬江漢，高野長英，佐久間象山，北里柴三郎，牧野富太郎，野口英世，湯川秀樹の8名。設問として“野口英世が日本で十分な研究ができず，アメリカで大科学者になったのはなぜでしょうか”がある。

69) 高山 毅：野口英世，212頁。金子書房，東京，1955。(図65)少年少女新伝記文庫全30巻の第7巻である。ナイチンゲール，リンカーン，徳川家康，シュヴァイツェル，福澤諭吉，パスツールの順である。

70) 高山 毅：人類のために生き，人類のために死す—野口英世—。吉田甲子太郎編：人類の進歩につくした人々，126～153頁。新潮社，東京，1956。新編・日本少国民文庫全12巻の第5巻である。本書には，レオナルド・ダ・ヴィンチ，ライト兄弟，グルントウィとダルガス，ズットナー夫人，野口英世，エイブラハム・リンカーン，の6名の伝記とベスタロッツ，葛飾北斎，ザメンホフ，シューベルト，パスツールの小伝がある。

71) 馬場正男著，高野六郎解説：野口英世，173



図64：池田宣政：野口英世，ポプラ社，1976



図65：高山 毅：野口英世，金子書房，1955

頁。ポプラ社、東京、1959。(図66)子どもの伝記物語全50巻の第1巻である。第2巻以降は、ファーマル、キュリー夫人、湯川秀樹、ガリレオの順で続いている。

72) 馬場正男：野口英世、173頁。ポプラ社、東

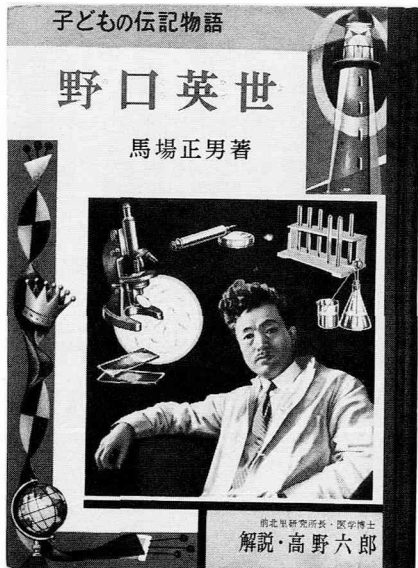


図66：馬場正男：野口英世。ポプラ社、1959



図67：沢田 謙：野口英世。偕成社、1978(26版)

京、1971。子どもの伝記全集全30巻の第4巻として体裁を変えて出版されたが、内容はまったく同じである。なお順序は、湯川秀樹、エジソン、ヘレンケラー、野口英世、キュリー夫人となった。

73) 馬場正男：野口英世、174頁。ポプラ社、東京、1982。ポプラ社文庫A107に編入された小型版で、内容は、71)や72)と同じであるが、高野の解説がなく、かわりに“あとがき”として“新しい野口記念館”が追加された。

74) 沢田 謙著、福島秀策解説：世界に誇る偉人 野口英世、296頁。偕成社、東京、1959(初版)、1978(27版、図67)世界偉人伝全集全50巻の第1巻である。このシリーズの初期にはケースがあったが、第26版ではケースがなくなり、表紙も変わった(図66)。福島秀策は東京歯科大学学長である。なお第2巻はキュリー夫人で、西郷隆盛、ヘレンケラー、豊臣秀吉と続く。

75) 船木武雄編：野口英世、232頁。小学館、東京、1963。(図68)ジュニア版伝記全集全15巻の第1巻。以下エジソン、ペープ・ルース、キュリー夫人、ベートーベン、リンカーン、ナイチンゲール、福沢諭吉となっている。なお編者船木は42)野口シカ物語の著者でもある。

76) 西山敏夫文、輪島清隆絵、波多野完治解説：のぐちひでよ、79頁。偕成社、東京、1963。幼年伝記ものがたり全10巻の第2巻である。第1巻はリンカーン、第3巻以下はキュリーふじん、ふくざわゆきち、エジソンなどとなっている。

77) 滑川道夫：野口英世。野口英世・宮沢賢治・湯川秀樹、9～120頁。講談社、東京、1965。(図



図68：船木武雄編：野口英世。小学館、1963

左：ケース 右：表紙

69) 少年少女世界伝記全集全15巻の第15巻で、これは日本編(4)になる。表題の3名の伝記の他に滝廉太郎、河川慧海、北里柴三郎、嘉納治五郎の小伝がある。20)の“少年伝記 野口英世”は本書の焼き直しである。

78) 滑川道夫：アフリカにたおれて 野口英世，198頁，講談社，東京，1972(初版，図70 左)，1978(18版，図70 右) 少年少女講談社文庫 伝記と歴史B-1である。この文庫のAは名作と物語，Bは伝説と歴史，Cは科学・記録となぞなぞ

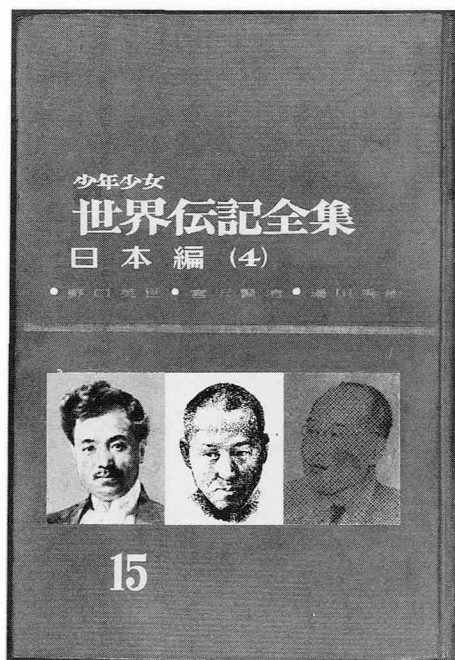


図69：滑川道夫：野口英世，講談社，1965

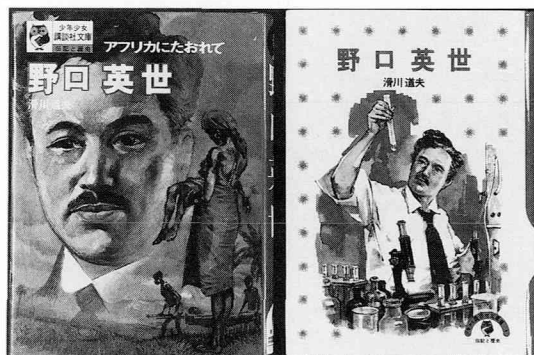


図70：滑川道夫：野口英世，講談社
左：初版，1972 右：18版，1978

を示す。従ってB-1は伝記と歴史の第1巻であることを意味している。2以下はエジソン、ヘレン＝ケラー自伝、ナポレオン、リンカーンの順である。内容は写真など若干異なるが本文は76)と同じである。なお初版(図70 左)の表紙は全体が青く陰鬱な感じがするが、18版(図70 右)では別な明るい表紙となった。

79) 滑川道夫：野口英世，田中正造・野口英世，119～260頁，講談社，東京，1978，世界伝記全集全20巻の第19巻，内容は77)と同じである。

80) 滑川道夫：見えない人類の敵にいどむ野口英世，214頁，講談社，東京，講談社 火の鳥伝記文庫1で，2はエジソン，以下ナイチンゲール，ヘレン・ケラー自伝，キュリー夫人と続く。77)と同じ内容，従って滑川の20)，77)，78)，79)，80)の5種の本は絵や緒言などを除けばすべて同じということになる。

81) 久保 喬：野口英世，岡田 要他3名監修：野口英世・ジェンナー・コッホ，8～95頁，小学館，東京，1966。(図71 左) 母と子の世界偉人物語全13巻の第1巻で，アンデルセン，リンカーン，ナイチンゲール，キュリー夫人の順で続く。

82) 久保 喬：野口英世，岡田 要他2名監修：野口英世・ジェンナー・コッホ，8～95頁，小学館，東京，1972。(図71 右)，小学1・2・3年むき偉人物語全10巻の第1巻である，体裁やシリーズ名は違うが81)と同じである。なお前者13巻のうち，ゴッホ，ナンセン，ペーブルースの3



図71：久保 喬：野口英世，小学館
左：母と子の世界偉人物語1，1966(ケース)
右：小学1・2・3年むき偉人物語1，1972(表紙)

巻が割愛されて10巻になった。

83) 久保 喬：野口英世，196頁，金の星社，東京，1973。低・中学年の偉人伝文庫全24巻の第4巻。リンカーン，りょうかんさま，二宮金次郎，野口，エジソンの順である。81)とは違う文章である。初版にはケースがあるが，1976年発行のもの（版数の明記なし）では，表紙が初版のケースのデザインに変わった代りにケースがない。

84) 木暮正夫：野口英世，158頁，国土社，東京，1966。子ども伝記全集全30巻の第4巻で，第1巻はヘレンケラー，以下チャーチル，エジソン，野口，徳川家康などとなっている。

85) 木暮正夫：野口英世，木暮正夫・手島悠介：野口英世・エジソン，5～78頁，ポプラ社，東京，1983。三年生文庫11。この文庫の10以前には伝記は皆無である。84)と内容・文章が違う。

86) 福田清人：野口英世，偉人伝記シリーズ，この人に学ぼう1，18，19，21～28頁，国文社，東京，1967。全18巻。本書には，野口英世，北原白秋，ジョン・ケネディ，友野与右衛門，シュバイツァー，光明皇后，御木本幸吉，織田幹雄，ストウ夫人，岡倉天心，大岡越前守，ガリレイが登場する。大版である。

87) 宮脇紀雄：ものがたり野口英世，196頁，偕成社，東京，1969。児童伝記全集全50巻の第2巻。ワシントン，野口，アンデルセン，豊臣秀吉，コ

ロンブスの順である。

88) 宮脇紀雄：野口英世，日本が世界にはこる医学者，196頁，偕成社，東京，1970。（図72）。児童伝記シリーズ全50巻の第2巻である。87)と比べると，表題とシリーズ名が変わっただけで内容は同じである。第2巻が野口というのは変化がないが，1. リンカーン，3. エジソン，4. キュリー夫人，5. 福沢諭吉と順序がまったく違うのは面白い。

89) 秋元寿恵夫：野口英世，細菌とたたかった人々，185～256頁，さ・え・ら書房，東京，1970。さ・え・ら伝記ライブラリー全30巻の第7巻で，ルイ・パストゥール，ローベルト・コッホ，北里柴三郎，野口が出てくる。

90) 秋元寿恵夫：人間・野口英世—医学につくした努力の生涯，230頁，偕成社，東京，1971（初版，図73 左）1976（5版，図73 右）少年少女世界のノンフィクション全30巻の第26巻である。このシリーズには伝記は少なく第10巻にヘレン＝ケラーとリンカーンがあるだけ。89)に肉付けしたものと考えられる。初版のケースは暗いが（図73 左），5版のカバーは明るくなった（図73 右）。

91) 秋元寿恵夫：人間・野口英世，318頁，偕成社，東京，1983。偕成社文庫3108。90)が同文庫に納められたものである。

92) 氷川 瓊：野口英世，岡田要，川端康成，浜田廣介監修：山椒大夫・野口英世ほか，165—216頁，小学館，東京，1973。ワイドカラー版少年少

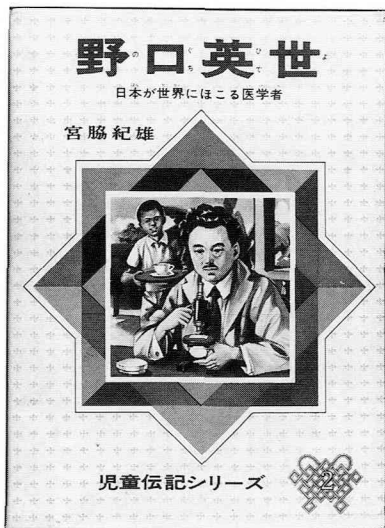


図72：宮脇紀雄：野口英世，偕成社，1970



図73：秋元寿恵夫：人間・野口英世，偕成社
左：初版のケース，1971
右：5版のカバー，1976

女世界の名作全55巻の第49巻で、これは日本編の第5巻に当たる。

93) 氷川 瓏：野口英世。野口英世・アムンゼン、5～66頁。小学館、東京、1981。国際版少年少女世界伝記全集全25巻の第4巻である。ちなみに1. キュリー夫人、マルコ・ポーロ；2. ダ・ビンチ、シュバイツァー；3. リンカーン、ベートーベン；5. スチーブンソン、ゴッホなどとなっている。92)を補筆したもの、中山茂の解説がある。

94) 氷川 瓏：野口英世、116頁。小学館、東京、1982。(図74)国際カラー版世界の伝記全50巻の第3巻で、キュリー夫人、シュバイツァー、野口、エジソン、リンカーンの順である。93)を野口だけに分離したもので、本文はほぼ同じ、絵と解説はまったく同じである。

95) 花岡大学：野口英世、172頁。集英社、東京、1973。母と子の世界の伝記全50巻の第2巻。ヘレン・ケラー、野口、リンカーン、福沢諭吉、エジソンと続く。

96) 宮 林太郎：野口英世、279頁。国土社、東京、1973。世界伝記文庫全50巻の第6巻である。二宮尊徳、福沢諭吉、平賀源内、高杉晋作、石川啄木の次になる。

97) 角田光男：のぐちひでよ、84頁。日本書房、東京、1974。二十世紀幼年文庫の1つであるが、番号は付されておらず、また全何巻なのかも分らない。

ない。

98) 神戸淳吉：野口英世、偉人のお話(日本編)、10～26頁。主婦の友社、東京、1976。少年少女世界全集全40巻の第20巻。野口、徳川家康、宮沢賢治、西郷隆盛、滝廉太郎、牧野富太郎、平賀源内、福沢諭吉が収録されている。

99) 神戸淳吉：野口英世、88頁。講談社、東京、1980。(図75)講談社の子どもの伝記全12巻の第3巻である。エジソン、ファール、野口、ヘレン・ケラー、ナイチンゲールの順。98)とは書き方が違う。

100) 神戸淳吉：野口英世、30頁。チャイルド本社、東京、1984。チャイルド絵本館伝記ものがたり全12巻の第5巻。ヘレン・ケラー、マゼラン、シートン、ペーヴ・ルースに続く。

101) 鶴見正夫：野口英世。北川幸比古編：科学・医学を前進させる人々たち、72～109頁。学秀図書、下関、1976。少年少女新伝記人物全集全20巻の第2巻で、ルイ・パスツール、野口、鈴木梅太郎、ガリレオ・ガリレイ、マリー・キュリーの伝記とロバート・コッホ、北里柴三郎、野中至、寺田寅彦、中谷宇吉郎の小伝から成っている。

102) 久米元一：野口英世。野口英世・牧野富太郎・塙保己一・平賀源内、5～100頁。講談社、東京、1976。少年少女全集の1つである“伝記と美しいお話”全20巻の第8巻である。第7巻までは



図74：氷川 瓏：野口英世。小学館、1982（帯）

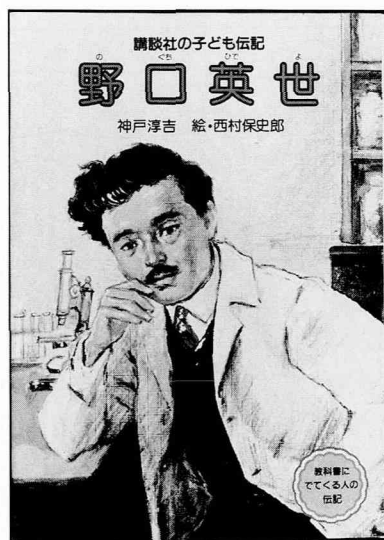


図75：神戸淳吉：野口英世。講談社、1980

外国人の伝記で、第9巻には豊臣秀吉、福沢諭吉らが収められている。なお本書には保永貞夫の解説がある。

103) 保永貞夫：野口英世，80頁，講談社，東京，1977。講談社の幼年文庫A（名作や伝記の本）全30巻の第9巻であるが，伝記としては“とんちの一休さん”に次いで2番目，この他にヘレン＝ケラー，エジソン，ファールブル，ナイチンゲール，アンデルセンが含まれている。なお同文庫Bは学習や科学の本である。

104) 伊東孝位：野口英世，158頁，文研出版，東京・大阪，1979（第4刷，図76）。文研の伝記全20巻の第6巻，他にシュワイツァー，ヘレン・ケラー，ペープ・ルース，エジソン，ファールブル，ナイチンゲール，ベートーベン，リンカーン，福沢諭吉などがあるが順序はわからない。また本書の初版がいつ発行されたかも不明。

105) 大石邦子：野口英世，64頁，歴史春秋社，会津若松，1980。（図77）歴史春秋社児童文庫の1つ，枝が1981年7月27日，第14回歯学体のため同地を訪れた折に求めたもの。挿絵の顕微鏡が，鏡胴は傾斜しているのにステージが水平なのはおかしい（47，55頁）。この間違いは他の本でも時々見られる。なおこの歯学体の剣道部門で松本歯科大学が優勝した。

106) 土家由岐雄：野口英世，158頁，偕成社，東京，1980（重版）。なかよし絵文庫全60巻の第22巻で，伝記としては，二宮金次郎，ナイチンゲール，りょうかんさま，キュリー夫人，とよとみひでよし，一休さん，エジソン，ワシントンなどがある。

107) 須知徳平：野口英世，168頁，主婦の友社，東京，1981。少年少女世界伝記全集全30巻の第1巻で，キュリー夫人，シュバイツァー，福沢諭吉，リンカーンと続く。

108) 五十公野清一：じんるいのおんじん野口英世，206頁，日本書房，東京，1981。小学文庫2，3年シリーズ全50巻の第6巻に相当するが番号はない。他に二宮金次郎，ワシントン，フランケン，ベートーベン，マゼランがある。

109) さくらのぶお：びょうきとたたかうのぐちひでよ物語，98頁，あすなろ書房，東京，1983。世界伝記えぶんこ全10巻の第4巻である。アンデルセン，ふくざわゆきち，ファールブル，のぐち，ヘレン・ケラーの順である。

最後に今流行の漫画ないし劇画（アニメーション）による伝記を列挙する。

110) 田中ちかお漫画，高橋明校閲：野口英世，112頁，集英社，東京，1959。（図78）学習漫画文庫偉人物語編全12巻の第1巻である。エジソン，二宮金次郎，リンカーン，福沢諭吉と続く。なお



図76：伊東孝位：野口英世，文研出版，1979

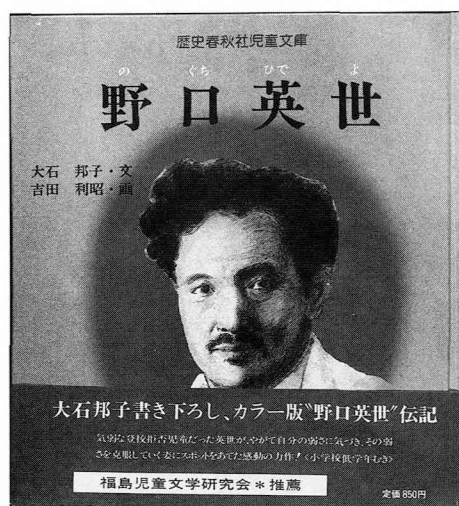


図77：大石邦子：野口英世，歴史春秋社，1980（帯）

本書は漫画伝記の最初のものであろう。

111) 竹山のぼる：野口英世，129頁，集英社，東京，1963，世界名作絵物語全24巻の第10巻，伝記として太閤記，発明王エジソン，良寛さまがある。



図78：田中ちかお：野口英世，集英社，1959(ケース，表紙も同じ)



図79：重森孝文，岡部幸一絵：野口英世，学習研究社，1976

る。

112) 重森孝文，岡部幸一絵：野口英世，134頁，学習研究社，東京，1976 (図79) 学研・絵ものがたり全50巻の第18巻。

113) さいとうあきら漫画，関山英夫監修：世界にはこる大医学者野口英世，144頁，学習研究社，東京，1978，学研まんが伝記シリーズの1つ，順番および全何巻か不明。

114) 堀田あきお漫画，関山英夫監修：野口英世，141頁，集英社，東京，1984，学習漫画・世界の伝記全12巻の第1巻で，ヘレン・ケラー，ナイチンゲール，エジソン，徳川家康と続刊する。

115) なぎさ謙二漫画，関山英夫監修：偉人野口英世，障害を克服した「世界に誇る医学博士」，145頁，秋田書店，東京，1985，まんが学習アルバム・伝記シリーズ全16巻の第1巻，このあとエジソン，キュリー夫人，リンカーン，福沢諭吉が続く，なおこれら3種の本を監修している関山英夫は野口英世記念会事務局長である。

116) きりぶち輝文，松田辰彦絵：野口英世，たくさんの人のいのちをすくったお医者さん，67頁，学習研究社，東京，1985，学研アニメ伝記シリーズ全12巻の第1巻で，ナイチンゲール，ファール，エジソン，豊臣秀吉の順である。

117) 森田拳次：野口英世，127頁，ポプラ社，東京，1985，(図80)ポプラ社・コミック・スペシャルの第6巻，第1～5巻は「ことわざ事典」で，第7巻以降ヘレン・ケラー，エジソン，豊臣秀吉，



図80：森田拳次：野口英世，ポプラ社，1985(帯)

ナイチンゲールと続くが全何巻なのかはわからない。

考 察

以上117種141冊の野口英世の伝記および彼の父母、師、友に関する単行本ならびに雑誌について解説した。冒頭に掲げた“野口英世博士生誕百年記念誌”(21)には、202種、“野口英世伝の研究”(48)には126種の文献目録が付いており、“丹：野口英世第1巻伝記”(50)には単行本だけで125冊、雑誌に掲載された短かいニュースや追悼などの記録約700がリストアップされている(この中に野口の著作になるものが40ほど混入しているのはおかしい)。従って野口英世関連の伝記類は約250種と推定され、今回約半数が蒐集できたと考えられる。今後も調査を継続するつもりであるが、特に入手したいものを挙げれば次の通りである。

1) 渡部毒楼(善助)：発見王野口英世。伊藤出版部、1921。大正10年、野口が存命中に出版された唯一の伝記である。アメリカに送られてこの本

を読んだ野口は「これは悪い本だ。人間というのは、こんな完全なものではない。これは作り話だ。」と言ったという(43)。

2) 小林 栄：野口英世の思出。岩波書店、1941。

3) 奥村鶴吉：野口英世。世界伝記全集40、講談社、1956。

4) Plesset, I. R.: Noguchi and His Patrons. Associated University Presses Inc. 1980。

さて、野口英世の伝記としては、戦前では、奥村鶴吉本(4)とEckstein本(5, 6)が双璧で、これに小泉本(28)を加えることができる。戦後のものでは、野口英世記念会編の野口英世伝(17)、筑波常治本(43)、丹実本(51)、中山茂本(53)、プレセット、中井・枅矢本(62)などが重要である。

野口英世は伝記(特に戦前の子供向けのもの)などであまりに英雄化されたため、また今風で言えば“目立ちたがり屋”の側面を持っているため、嫌われることもあるが、現在でも前述の如く、子

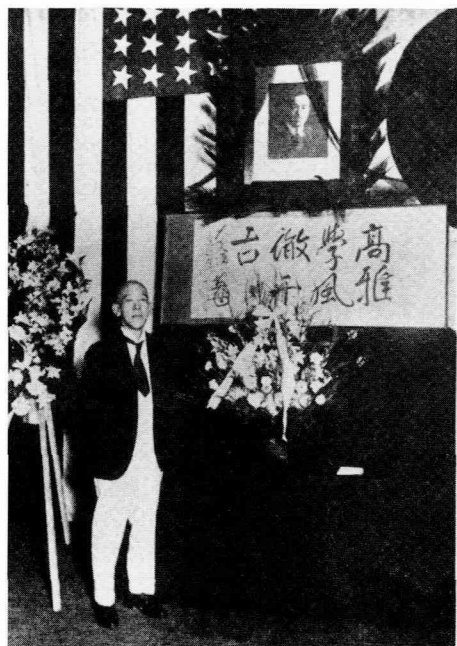


図81：野口英世追悼会における血脇守之助：バックに遺影と遺墨が見える。
松宮誠一編：血脇守之助伝、1979より

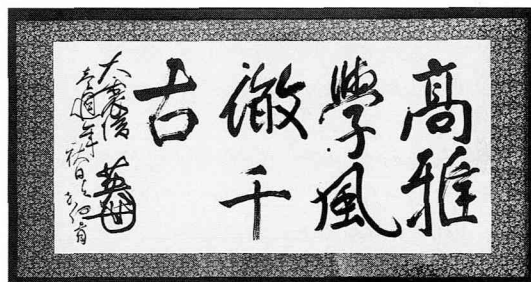


図82：複製された「高雅学風徹千古」、1987



図83：野口英世のテレホンカード(2種)、野口英世記念館、1986

供向けの伝記全集には必ず登場し、常にベスト5に入るほどの人気を保っている。能力もさることながら、睡眠3時間（若干オーバーであるとしても）という体力と努力、それにチャンスはとびついてでもこれをものにするという積極性はやはり偉大であると言わねばならない。彼の悲劇は、電子顕微鏡でしかとらえられない濾過性病原体（ウイルス）を光学顕微鏡で追ったことにある。エクアドルでワイル病のスピロヘータを黄熱病の病原体と誤認し、その証明のためその後の10年間を空しく費し、“I don't understand!” とつぶやいて逝ったのである。52歳であった。

野口英世と血脇守之助との関係については最初に述べた通りである。従って、“松宮誠一編：血脇守之助伝、394頁、東京歯科大学、1979”には、野口に関することが所々に散見される。例えば会津若松のドクトル渡辺鼎のところでの両者の出会い、高山歯科医学院での再会、血脇と遠藤至六郎が、ニューヨーク、ワシントンを訪れた時に野口がガイドをしたこと、野口死去の際の東京歯科大学専門学校の対応などである。そして追悼会場で野口の“高雅学風徹千古”の遺墨を背にして撮った血脇守之助の写真が印象的である（図81）。この書は、関東大震災（1923年9月1日）の見舞として翌1924年（大正13年）にニューヨークから送り届けられたもので“英世”の署名を囲むように“大震災後壹週年秋日於紐育”と書かれてある。この遺墨は、1985年秋に開かれた東京歯科大学同窓会創立90周年記念行事の一環として、血脇守之助の書と共に複製することが企画され、その後、希望者のみに限定複製することになった。注文しておいたところ実にタイミングよく、本総説を脱稿する1987年3月25日にそれが届けられたのでここに披露する次第である（図82）。ついでに今流行のテレホンカードにも野口英世が登場しているので紹介しておきたい（図83）。

最後に、資料の整理などに協力を得た本学口腔病理学教室 三溝充子研究補助員ならびに野口英世のテレホンカードを恵与下さった本学歯科放射線学教室 馬瀬直通助手に感謝の意を表する。

追 補

本総説の脱稿後、子供向けの次の1冊を入手で



図84：上 笙一郎：野口英世、教育同人社、1965？

きたので追補しておきたい。

118) 上 笙一郎文、二俣英五郎絵：野口英世、33頁、教育同人社、東京、1965？（図84）毎日文庫第2集 伝記編えらい人の話の12である。この第2集は、アンデルセン、エジソン、キリスト、キュリー夫人、コロンブス、ジャカ、シュバイツァー、シューベルト、豊田秀吉、ナイチンゲール、二宮尊徳、野口、福沢諭吉、ベートーベン、ペーブルース、ヘレンケラー、牧野富太郎、リビングストン、良寛、リンカーンの20人から成っている。面白いことに、この順序はアイウエオ順であることに気が付いた。すべて33頁と薄いので、これら20冊をまとめて納められるようにケースがある。発行年月日がどこにも記されていないのは不親切（書誌学的に言えば不完全）である。しかし20番目のリンカーンの最後頁に、“リンカーンもケネディーもころされました。”とあり、ケネディーは1963年11月22日に暗殺されているので1964年以降の発行であることがわかる。また1冊60円であることを合わせ考えると、前記の通り1965年頃ではないかと推定できる。なお第1集が伝記なのかどうかについては、第2集に登場する人物がアイウエオ順で、アから始まりリで終わっていることや、日本人ばかりでなく外国人も含まれているところから、伝記ではないと考えられる。